りっく☆じあ～す×リトルアーモリー　～誰の為に引き金を引く～

土居内司令官（陸自ヲタ）

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

２０ＸＸ年、突如地底から出てきた未知の生命体・マグマ軍によって地表の半分以上が奪われた。

各国軍は奮闘し、自衛隊も何とか主権を維持出来るくらいまで奪還する事に成功していた。

２０ＸＺ年、事態は急変する。

突然マグマ軍は兵力を中東アジアへと集め、共産主義テロリスト・アラブ社会主義連盟（ＡＳＦ）と同盟を結び、中東の大半を占領してしまったのである。

そして、マグマ軍が奪っていった大事な物を奪還する為、自衛隊は国連多国籍軍の一員として派遣される。その中には、かつて中央混成連隊、即応混成中隊と呼ばれていた「即応機械化中隊」も含まれていたーー

＊「りっく☆じあ～す　中央混成連隊、前進す！」の続編です。

＊前作のキャラも出ていますが、設定を変えています。

＊前作同様、ゲームシステムガン無視です。

＊独自解釈が含まれます。

目次

1st 降下準備良し ―― 1
2nd 各個射撃開始 ―― 3
3rd 身体に訊くしかないな ―― 8
4th この部屋で聞いた事は他言無用だ ―― 12
5th 厄介だな ―― 15
中東編
6th 中東の空は俺達に訊けってな ―― 17
7th 状況開始 ―― 22
部隊設定 ―― 24
装備設定 ―― 28
敵対勢力 ―― 36
用語解説 ―― 41
8th これより排除する ―― 48
9th 撃ちまくれ ―― 52
10th 爆弾です ―― 56
11th 弾幕を張れ ―― 59
12th Freeze ―― 61
13th 不能 ―― 66
14th ざっとこんな感じだ ―― 68
15th 何でも揃えるのが私のモットーですから ―― 71
16th 戦いは数だよ兄貴 ―― 73
17th 一昨日来やがれってんだ ―― 76
18th バビロン計画 ―― 78

１ｓｔ　降下準備良し

中東アジア、アスラール共和国の国境付近――

「１小隊、準備良し！」

「２小隊、準備良し！」

「総員立てぇ！　即機中、降下準備良し！」

その掛け声と共に、機内の簡易ベンチに座っていた全員が立ち上がる。そして、背負ったリュックサックのような何かから伸びるロープを、機内のバーに引っ掛け、引っ張って確認する。

「今回の任務は、捕虜から情報を聞き出して判明した放射線物質を捜索、確保する事だ！　そのためにわざわざ空挺レンジャー資格を取り、そして遠路はるばる中東までやってきた事、危険地帯をわざわざ飛んでもらっている空さんの事を肝に銘じろ！　それでは、地上でまた会おう！」

邀撃戦闘機・Ｆ―１５ＭＪ　イーグルに護衛された、航空自衛隊の大型戦術輸送機・川崎重工　Ｃ―２の貨物室の扉が開いた。

地上からは煙が上がっており、ほぼ無風なのが分かる。

〔コスモ、コース良し、コース良し、用意用意用意！　降下降下降下！〕

機内のランプが赤色から緑色に変わった。

「降下ぁ！」

そして、貨物室両側の扉から、続々と飛び出していった。

「１小隊、降下確認！」

「２小隊、降下確認！」

「機内良し！　お世話になりました！」

そして、最後の３人が貨物室から飛び出した。

機内に引っ掛けたロープが伸びきり、Ｃ―２輸送機からある程度離れた所で背負っていたリュックサックのような何かが開き、自動でスクエア形パラシュート――１３式空挺落下傘――が引き出されて展開した。

夕焼け空に、無数の空挺隊員が浮かび、徐々に地上へと降りていく。地面が近くなり、着陸体勢へ。足に括り付けていた、迷彩柄のリュッ

クサック――戦闘背嚢――を先に投下、両足を揃える。そして、地面に足が触れた瞬間に重心を後ろへ。でんぐり返りの容量で地面に着地した。

起き上がり、素早くパラシュートを巻いてケースに収める。そして、戦闘背嚢を背負い、肩に掛けていたライフルケースから自動小銃――Ｈ＆Ｋ　Ｍ２７ＩＡＲ――を取り出し、セレクターを「ＳＡＦＥ」から「ＡＵＴＯ」に回し、作動桿（コッキングハンドル）を引いて初弾を薬室（チャンバー）に送り込む。

「中隊集合！　駆け足！」

防暑服（砂漠迷彩）に防弾チョッキ　３型、８８式鉄帽、そして８９式５．５６ｍｍ小銃　２型を携えた男性が叫び、隊員達が集合する。

「我々の目的は、ここから東へ８ｋｍにあるファルジナの奪還及び別動隊との合流、その後にカルバーンに突入する！　坂城２尉率いる１小隊は先行し、狙撃班を潜入させろ！　２小隊　１分隊もついて行け！　状況開始！」

２ｎｄ　各個射撃開始

豊後水道上空を、３機のヘリコプターが低空飛行していく。
宵の空に溶け込むような、濃い蒼色の洋上迷彩が施されたそれは、海面を掠めるように飛んでいく。
双発ターボシャフトの中型特殊作戦用ヘリコプター――三菱重工ＵＨ―６０ＪⅡ改　ブラックホーク――は、前方赤外線装置によりぶつかる事無く飛行する。その機内には、自動小銃を携えた女性――否、少女達が乗っていた。
「そろそろだ。降下用意」
１人の、ぼさぼさの茶髪をポニーテールに結った少女が声を出し、一斉に作動桿が引かれた。

数日前――
「い、異動ですか!?」
「そうだ、坂城２尉」
自衛隊及び国連多国籍軍の連合軍による九州奪還作戦の直前、陸上自衛隊　陸上総隊　中央即応連隊の坂城　大翔（さかき　ひろと）２等陸尉はこう言われた。
「貴様の小隊は、半数が病院送りにされていて、満足に戦えるが２個分隊にも満たないからな。そこで、小隊を解散し、使える人材は別隊に異動させる事になった」
「確かに、関東ゲリラ戦の際に小隊は奇襲を受けて――一体、何処に異動なんですか?」
「第１８機動旅団　即応機械化中隊　第１小銃小隊だ」
「１８旅団って――『関東奪還の英雄』率いる部隊じゃないですか!?
『化け物相手に国際法なんて知ったもんじゃない』とか言う精鋭部隊に、何で――」
「最適なのがいなかったらしい。それに、『関東奪還の英雄』こと土居内１佐は旅団長になったからな。即応機械化中隊は別のが指揮っている」

こうして坂城2尉は、かつて中央混成連隊、即応混成中隊と呼ばれていた即応機械化中隊に配属になったのであった。

ＵＨ―６０ＪⅡ改特殊作戦ヘリは、宮崎県　都農に侵入した。搭載された７．６２ｍｍ　Ｍ１３４ミニガン多銃身機関銃を地表に向けて警戒、ドアを開け、ホイストにロープを掛ける。そして、ロープを手足で挟み、滑り降りていった。

着地した彼女達は暗闇に紛れ、消えていった。

「何だって大将姉様がいない時にヤポンスキーが攻めてくんのよ!?空気読めってんだ！」

暗闇の国道を車列が通る。先頭はＢＲＤＭ―２偵察装甲車、その後ろにＺＩＬ―４１０４高級自動車と２台のＵＡＺ―４６９多用途車がくっついていた。

そして、ＺＩＬ―４１０４高級自動車の車内では、１体のマグマ軍――日本南西軍　副指揮官・カテリーナ少将――が暴れていた。そして、別のマグマ軍――日本南西軍　本部親衛隊隊長、ノーナ大佐――が宥める。

「大将殿は関東奪還の為に作戦を立てたのです。その留守を預かるのが我々の任務です」

「分かってんわよそんぐらい！」

「ビンゴ、マグマ軍の将校ね」

車列を見ていた少女達の内の１人が、双眼鏡から目を離しながら呟いた。

「普通、指揮官の親衛隊は１個戦車小隊と２個歩兵分隊が付くって、あの単眼が言っていなかったか、守山准尉？」

「綾音でいいって言ってるでしょ？　１個歩兵分隊って事は、副指揮官の警護隊かしら？」

「で、姐さん。どうするんで？」

「当然、叩くに決まってるでしょ。国分士長、軽ＭＡＴで先頭の偵察車を。相浦３曹がバックアップ。鞠亜ちゃんはあの黒塗りセダンの運

転手を。他の狙撃手はセダンに乗っている護衛を排除。残りはジープもどきを廃車にしなさい。あ、1台は残しといて。軽ＭＡＴ発射を合図に各個射撃開始！」

それを聞き、部隊は車列を追う。白髪ショートの少女は背負っていた歩兵携行型対戦車ミサイル――０１式軽対戦車誘導弾（軽ＭＡＴ）――の保護キャップを全て外し、夜間暗視装置を起動、覗き込んでＢＲＤＭ―２偵察装甲車に十字型照準線（クロスヘアレクティカル）を合わせる。攻撃モードをトップアタックモードへ。ミサイルシーカーがターゲットを識別、発射準備が整った。

「1発行きます！」

少女はそう叫び、引き金を引いた。

発射された対戦車ミサイルは、勢い良く急上昇、ある程度上昇した所で急降下へ。ミサイルシーカーは確実にＢＲＤＭ―２偵察装甲車を捉え、特攻機の如く飛び込んだ。

タンデムＨＥＡＴ（対戦車成形炸薬）弾頭の1段目は砲塔を、２段目は車体を木っ端微塵に吹き飛ばす。

「な何だ!?」

「奇襲です！　少将伏せて！　ドライバー、何があっても止まるな！」

黒髪ロング双眼のノーナ大佐が、ホルスターからマカロフＰＭ自動拳銃を引き抜き、運転しているマグマ軍歩兵に指示を出す。

彼らを乗せたＺＩＬ―４１０４高級自動車は一瞬減速するも、直ぐに加速、反対車線に飛び出してＢＲＤＭ―２偵察装甲車の残骸をかわす。

しかし、ツインテールの少女は自身の唇を舐め、肩に担ぐように構えたＭ８２Ａ２対空／対物狙撃銃の狙いをずらし、引き金を引いた。

強い衝撃と共に、ＺＩＬ―４１０４高級自動車が時計回りにスリップ、田んぼに落っこちた。

「くそ、スナイパーか!?」

ノーナ大佐が叫び、床にひっくり返ったカテリーナ少将が泣き喚く。

「冗談じゃないわ！　上官や共産監視委員相手に媚びへつらってここ

までのし上がってきたのよ!?　ヤポンスキー如きに邪魔されたくないわ！」
スコープの十字型照準線は、ＺＩＬ―４１０４高級自動車の運転席にいるマグマ軍歩兵の頭と重なる。
そして、引き金が引かれた。
分厚い防弾フロントガラスを貫いた弾丸が、マグマ軍歩兵の頭を粉砕し、防弾プレート入りヘッドレストを貫通、防弾リアガラスにめり込んだ。
「アンチマテリアルライフル!?」
ノーナ大佐が驚き、カテリーナ少将が泣き叫ぶ。
「ノーナ！　何とかしなさいよ！」
「当然です、少将」
ノーナ大佐は座席の下から、ＲＰＫＳ―７４重小銃を取り出し、８０連並列弾倉を装着、作動桿を引いた。
その時、助手席に座っていたマグマ軍歩兵が、迂闊にもドアを開けて外に出た。
「馬鹿！　今外に出たら――」
直後、ＡＫＳ―７４自動小銃を手にしたマグマ軍歩兵は、頭を撃ち抜かれた。
スコープを覗きながら、少女は作動桿を引く。
「ヘッドショット、ヒット。車内に……まだ２人いるな」
ほぼ同時に、２台のＵＡＺ―４６９多用途車のヘッドライトが狙撃され、辺りは真っ暗闇になる。
数発の銃声により、護衛のマグマ軍歩兵が全滅した。
（この手際、奴らはＳＯＧ〔特殊作戦部隊〕か!?）
ＲＰＫＳ―７４重小銃を手にしたノーナ大佐は思慮する。
右前輪が何処かへ飛び、田んぼに頭から落ちたＺＩＬ―４１０４高級自動車へ、２人の少女が近付く。片方はＭＫ１８　ｍｏｄ１自動小銃からＭＰ７Ａ１短機関銃へ、もう片方はＭＫ１８　ｍｏｄ０自動小銃からＭ５００手動散弾銃へと持ち換える。
先台（フォアエンド）をスライドし、初弾を薬室に込める中、ＭＰ

７Ａ１短機関銃を手にした少女は、開いていた助手席から閃光音響手榴弾（スタングレネード）を投げ込んで離れた。
「――!?」
ノーナ大佐とカテリーナ少将は目を見開く。直後、閃光音響手榴弾は起爆した。
再び２人の少女はＺＩＬ―４１０４高級自動車に近付き、助手席から手を差し込んで後部ドアを開ける。そして、三半規管と目と耳をやられてもがき苦しむ２体をＺＩＬ―４１０４高級自動車から引きずり出し、パラコードで作った縄手錠を両手両足に嵌めた。
「ターゲットを確保。繰り返す、ターゲットを確保」
〔了解。撤収するわよ〕
すぐにＵＡＺ―４６９多用途車がやってきて、２人は２体を荷台に載せる。そして、１８人の少女達は移動を開始した。

３ｒｄ　身体に訊くしかないな

太平洋・鹿児島県沖に展開中、国連多国籍軍　第１３機動艦隊旗艦・ワスプ級強襲揚陸艦〈サラトガ〉へと、１機のＭＶ―２２Ｊ輸送ヘリが着艦する。

そして、開いた後部ランプドアから、１８人の少女達が２体の捕虜を抱えて降りてきた。

「よぉし、空いている部屋にぶち込んどけ！」

３０代辺りの、２型迷彩服を着た男性が指示を出し、少女達は捕虜を連れていく。

その横で、２０代後半の男性が見ていた。

「マグマ軍将校か……」

「今までは、下っ端が投降してくるくらいだったからな。一気に情報戦では有利に立てたな」

そう言って、３０代の男性自衛官は艦橋へと向かった。２０代の男性自衛官――坂城　大翔２等陸尉――は、〈サラトガ〉の艦橋を一瞥し、３０代の男性自衛官の後に続いた。

彼、坂城２尉がこの第１８旅団　即応機械化中隊　第１小銃小隊小隊長に任命され、早６日。自分と直属の上官――中隊長の須恵原　久路１等陸尉――以外が女性であるというイレギュラーには、まだ慣れそうも無かった。下手な事を言えば、すぐに孤立するのは目に見えている。普通の職場なら、空気が悪くなるだけ――それもそれで地獄だが――だが、命の奪い合いをする自衛官という職種において、それは部隊全体の命取りになる。

せめて全員成人しているか、もしくは自衛隊学校上がりなら良かったのに、と坂城２尉は思う。何故なら、第２小銃小隊の殆どが現役女子高生――予備自衛官特別教育法により、即応予備自衛官扱いされているが――だからである。別隊とはいえ、戦場では強力しあう関係であるし、何より自分の部下だって高校卒業したての叩き上げが殆どである。

先任の土居内1佐は、一体どういう心境だったのか。元空挺レンジャー故、メンタルは強かったのだろうか。
先程からそう思慮する坂城2尉は、彼女いない歴＝年齢であった。

やがて、〈サラトガ〉へと1機の真っ青なヘリコプター――ＴＨ―４８０練習ヘリ――とＵＨ―１Ｊ汎用ヘリが着艦した。
『司令かーん！』
〈サラトガ〉の艦橋から、即応機械化中隊の隊員達が飛び出していく。
そして、ＴＨ―４８０練習ヘリから降りてきた自衛官――土居内佳樹1等陸佐――の周りに集まった。
「さすが旅団長殿。人望が違う」
〈サラトガ〉艦橋から、須恵原1尉が飛行甲板を見下ろしながら言った。
「よほど慕われてたんだなぁ……」
〈サラトガ〉飛行甲板にて、坂城2尉がぼそっと呟いた。すると、隣にいた女性――第2小銃小隊　本部班　小隊陸曹代行、クレア＝Ｆ＝プレストン――が口を開いた。
「まだ来たばかりのあなたには、羨ましく見えるでしょうね」
「別にそんなんじゃ――」
「日本ではああいうのを、ハーレムって言うんだっけ？」
「まぁそうですが、俺はそういうの好きじゃないんです」
「現役ピチピチのＪＫに囲まれるのが？」
「色々突っ込みたい所ですが、高校教師の発言として問題になりますよ」
「若い女に囲まれるのが、男の願望だって聞いたわよ？」
「それがそのまま全員に通用すると思わないでください」
「Ａｈ，ｇａｙ？」
「違います」
すると、クレアは察した。
「Ｖｉｒｇｉｎ　ｂｏｙ……日本では、Ｃｈｅｒｒｙ　ｂｏｙだった

かしら？」
　思わず、坂城２尉は口を噤む。
「……ええ、まぁ」
「Ｙｅｓと取っていいのかしら？」
「そうですよ……」
「別に責めるつもりは無いわ。ただ、くれぐれも変な事はしないようにね」
「警務隊のお世話になるつもりはありませんよ」

　その後、土居内１佐と須恵原１尉、坂城２尉、富士の４人は、カテリーナ少将が監禁されている部屋の前にやってきた。
「土居内１佐、お久しぶりです」
　Ｍ８７０ブリーチャー手動散弾銃を手にした白根　凛と朝戸　未世が敬礼、土居内１佐も返す。
「さて、マグマ軍将校とご対面だな」
　扉が開き、４人は中に入る。そこには、鎖に繋がられたカテリーナ少将の姿があった。
「お前ら！　一体何をしているか分かっているのか!?　日本南西軍団司令官の大将姉様の手に掛かれば、こんな船は一瞬で海底行きだ！私を解放すれば、見逃してやる！」
「まーだ威勢がいい」
　吠えるカテリーナ少将を見ながら、富士が一言。
　そして土居内１佐が口を開く。
「あんたに聞きたい事はただ１つ。全国にある原子力発電所の燃料棒、３８本の行方だ」
　その言葉に、坂城２尉と富士が驚くが、カテリーナ少将は土居内１佐に唾を飛ばした。
「そんな事、知る訳が無い。大将姉様なら知ってるかもしんないけどね」
　土居内１佐はハンカチで顔を拭きながら、カテリーナ少将を見る。
「へぇそうかい。だったら……身体に訊くしかないな」

その言葉に、カテリーナ少将はビクッとなり、富士が土居内1佐をジト目で見た。
「市ヶ谷元3佐に言いつけるわよ？」
「冗談です教官。ただ、別の人間に訊いてもらう」
そう言って、土居内1佐は手を叩いた。

４ｔｈ　この部屋で聞いた事は他言無用だ

日本本土奪還も、関東・中部・東北までである中、ある事が判明していた。
解放した地域にあった原子力発電所――福島第２原子力発電所や女川原子力発電所、浜岡原子力発電所、柏崎刈羽原子力発電所――では、全ての燃料棒が消えていたのである。詰まる所、マグマ軍が略奪したとしか考えられない。

「ほらほら、そろそろ吐いたらどう？」
「ま、待て、そんな所に――――～～～～!?」
自主規制により、音声すら流れません。

数十分後、そこには痙攣しっぱなしのカテリーナ少将の姿があった。
「さすが岬守学園、尋問に容赦が無いな」
土居内1佐がそう言い、紫髪の女子高生が応えた。
「それ程でも」
「礼を言おう。これで大事な事が分かった。くれぐれも、この部屋で聞いた事は他言無用だ」
「何の事かしら？」
「それでいい」
一方、部屋の外には坂城２尉がいた。
「尋問って……」
「非人道的でなければいいんじゃない？　さくらんぼ君には声だけでも刺激が強かったかしら？」
「富士３――」
「だいたい分かるわよ」
そう言って、富士が半歩坂城２尉に近付く。すると、坂城２尉は半歩遠ざかる。
「どんなに優秀な指揮官でも、女に慣れていなきゃ、意味無いじゃない

？」
「そりゃ好きでこうなった訳では――」
「でしょうね。でも、ここじゃそんな言い訳は通らないわ」

そして、ＴＨ―４８０練習ヘリとＵＨ―１Ｊ汎用ヘリが飛び立っていった。
強襲揚陸艦〈サラトガ〉は夕陽に照らされ、夕飯の時間になった。
士官食堂へとやってきた坂城２尉と富士は、セルフサービスの食事を装い、同じテーブルについた。
「富士３尉、質問しても？」
「いいわ」
そう言って、富士はハムを箸で挟んだ。
「土居内１佐は、どういう人物だったので？」
「自分の補佐役に手を出した男」
「いや、それ以外で……」
「根は真面目、でも頭のネジが１０本ぐらい吹っ飛んでいる」
「……」
「レンジャー教育の時だって、教官チームの陣地を攻めるのに、たった４人で正面から陽動、残りを裏の崖から登らせて強襲とかいう無茶な作戦を立案し実行。第１空挺団の時には、たった２０人の分隊で４００を超える武装勢力と交戦して全員生還。中央混成連隊では、たった２人で敵の要塞に突入して捕虜になる……いつ死んでもおかしくなかったわ」
「……」
「その上部下に慕われていると来た。まさに、ライトノベルの主人公級よ。年齢と既婚である事を除けば。あ、アラサーバツイチの主人公が既にいるか」
「俺、何でここに配属されたんですかね……」
「他にいい奴がいなかったのよ。『幹部レンジャー資格を有し、捨てても惜しくなく、小隊長の経験があり、そして頭のネジが吹っ飛んでいる輩』がね」

「頭のネジが吹っ飛んでいるなんて、自覚は無いんですが」
「誰だってそうよ。自覚なんてある訳無い」
坂城2尉は、言葉が出なかった。もやもやしたまま、ポテトサラダを口に入れた。

５ｔｈ　厄介だな

数日後、海上自衛隊　第６護衛隊群旗艦、いずも型ヘリ搭載護衛艦〈ふそう〉、多目的会議室――

「ここに集まってもらったのは、他でも無い。マグマ軍についてだ」

壇上で、防衛省　統合幕僚長の弥勒田海将が口を開いた。

「現在実行中の九州奪還作戦において、直前になってマグマ軍が撤退する事案が発生した。勿論、罠の可能性もあるため、最善の注意を払って上陸を行っている。だが、航空自衛隊のＦ―３５ＡＪの偵察によると、北海道・近畿・中国・四国でも同様な現象が確認されている。土居内１佐、説明を」

そう言われ、土居内１佐が立ち上がり、壇に上がって説明を始めた。

「先日、第１８旅団配下の部隊がマグマ軍将校――本人は、マグマ軍日本南西軍団　副指揮官と言っていますが――を確保する事に成功しました。適切な尋問を行い、情報を聞き出した所、マグマ軍は日本全国にある核燃料棒を略奪し、中東へ運んでいる事が分かりました」

その言葉に、多目的会議室にいた幹部自衛官達がざわついた。

「もしそうであるならば、日本の沽券に関わる重大な問題だ」

安田　晋介内閣総理大臣が言い、他の大臣達も頷く。

「それ以前に、中東アジアは正規軍にテロ組織、おまけにマグマ軍の三つ巴の乱戦の最中、テロ組織・アラブ社会主義連盟（ＡＳＦ）とマグマ軍が同盟を結び、中東で主権を維持出来ているのはイスラエル程度と最悪な状態です。世界の殆どは、中東から石油を買えず、アメリカやロシアから購入してやっとの現状です。我が国も、先月自家用車の利用禁止令を出すほど、緊迫した状況です」

小野里防衛大臣がそう言うと、安田首相は頷いた。そして、口を開く。

「しかし、何故マグマ軍は地上から物資を略奪するんだ？　地下にはもっとあるだろうに」

すると、経済産業省の職員が手を挙げた。

「これは仮説ですが、マグマ軍には相応の技術力が無いと思われます」

「どういう事だ？」
「マグマ軍が今までに占領した地域には、数多の放射線物質がありました。にもかかわらず、今まで一度も核を使ってこなかった。自衛隊が捕獲したマグマ兵の検体を検査した所、福島第1原子力発電所が爆発した直後の地域を平気で活動出来る耐性が分かっています。使っても問題無いのに、使わなかった。つまり、作る技術力が無いのではないでしょうか？」
　今度は、航空自衛隊の幹部自衛官が手を挙げた。
「専門外だからよく分からないのだが、核燃料棒から核兵器を作れるのか？」
「鉱石から作るよりは簡単です。何せ、放射能の濃度が違う。それに、核燃料棒だけでも、『貧者の核兵器』を作る事は楽勝です」
「それは一体？」
「起爆装置の付いた容器に大量の放射能を入れ、起爆すると辺り一面が汚染されるというものです。核爆発は起きませんが、ガイガーカウンター無しに普通の爆弾テロと区別する事は不可能です」
「厄介だな」
　安田首相がそう言い、唸る。
「今、国連――というか、米露でだが――では、中東アジアへの武力介入が検討されている。もしここで日本の核燃料棒が見つかれば、国際世論から見放される。何としても、それは避けなければならない」

中東編

６ｔｈ　中東の空は俺達に訊けってな

数ヶ月後、中東アジア　イヴァク連邦沖、アメリカ海軍　第１２空母打撃群旗艦、フォード級原子力空母〈ドナルド＝トランプ〉、第８１洋上攻撃飛行隊ブリーフィングルーム――

「我々の目的は、アスラール共和国及びその周辺一帯を占領した、クソッタレ地底生物とクソッタレ共産主義テロリストを殲滅する事だ。まず我々は南西の制空権を確保、アドレア空軍基地とフラビシル国際空港を叩くストライクパッケージ（戦爆連合）を護衛する。地域は違うが、ロシアや中国、インドもこの作戦に参加している。スホーイやミグを見つけたからって、ＩＦＦ（Ｉｄｅｎｔｉｆｉｃａｔｉｏｎ　ｏｆ　Ｆｒｉｅｎｄ　ｏｒ　Ｆｏｅ、敵味方識別装置）を確認せずにぶっ放す事は絶対にするな」

そして、原子力空母〈ドナルド＝トランプ〉から、次々とＦ／Ａ―１８Ｅ多用途戦闘機が発艦していく。

発艦後、編隊を組み、航空自衛隊のＦ―１５ＭＪ制空戦闘機の編隊と合流した。

〔こちらＶＦ―８１、シャークリーダーだ〕

〔２１０ＳＱ、ムシャリーダーだ。お手柔らかに頼む〕

〔いいぜ日本人。中東の空は俺達に訊けってな〕

その時、アメリカ空軍のＥ―３Ｇ早期警戒管制機が呼び掛けた。

〔スカイアイ４１よりエコーファイター。エリア・ＤＨ２１０４、方位１８０へ向け、高速で移動する物体だ。同高度、接触まで６分〕

〔コピー！　マスターアームオン、マスターアームオン！〕

〔ムシャリーダー、コピー。レーダーコンタクト。ＩＦＦ応答無し、機種を判別しよう――フランカーとファルクラム！　４機ずつだ！〕

〔シャーク０２、ロメオコンタクト！　レーダー波を照射された！〕

〔スカイアイ４１、コピー。交戦を許可する。繰り返す、交戦を許可す

る〕
〔シャークリーダー、コピー！　ＥＷ（Ｅｌｅｃｔｒｏｎｉｃ　Ｗａｒｆａｒｅ、電子戦）開始！　エンゲージ、エンゲージ！〕
１２機のＦ／Ａ―１８Ｅ多用途戦闘機と１６機のＦ―１５ＭＪ制空戦闘機が増槽を切り捨て、チャフを撒きながら旋回、ＡＩＭ―１２０　アムラーム中距離空対空ミサイルとＡＡＭ―４Ｂ中距離空対空ミサイルを発射する。
中距離空対空ミサイルによって、お互いに損害が出る。
そして、マグマ軍の防空戦闘機２７號と戦場戦闘機２９號とドッグファイトに突入した。
〔ムシャ６、後ろだ！　ブレイク、ブレイク！〕
〔貰ったぜ！　シャーク０９、ＦＯＸ２！〕
〔被弾した！　ムシャ１１、イジェクト！〕

少なからず損害を出したものの、作戦空域の制空権を取る事に成功した。
〔ストライクパッケージ、こちらファングリーダー。これよりフラビシル国際空港へ攻撃を行う〕
〔スカイアイ４１、コピー。これより指揮管制はＥ―８　ジョイントスターズに移る。コールサインはトムキャット２２だ〕
〔ファングリーダー、コピー。トムキャット２２、こちらファングリーダー〕
〔ファングリーダー、こちらトムキャット２２。感度良好だ〕
〔トムキャット２２、よろしく頼む〕
〔任せとけ。地上には、ＵＳマリーン（アメリカ海兵隊）のＦＦＯＰ（Ｆｏｒｗａｒｄ　Ｆｉｒｅｓｕｐｐｏｒｔ　Ｏｂｓｅｒｖａｔｉｏｎ　Ｐｏｉｎｔ、前線火力支援観測所）がある。コールサインはピープル１だ〕
〔ファングリーダー、コピー。ファングリーダーから各機、ＨＴＳ（ＨＡＲＭ　Ｔａｒｇｅｔｉｎｇ　Ｓｙｓｔｅｍ、ＡＧＭ―８８　ハーム対レーダーミサイル用照準ポッド）起動、ＥＷ準備。網破りの開始だ

！〕
４機のＥＡ―１８Ｇ電子戦攻撃機が、ＥＣＭ（Ｅｌｅｃｔｒｏｎｉｃ　Ｃｏｕｎｔｅｒ　Ｍｅａｓｕｒｅｓ、電磁妨害）を行いながらフラビシル国際空港へ接近する。
〔ＳＡＭサイト（地対空ミサイル陣地）を発見した！〕
〔攻撃許可は下りている。攻撃せよ〕
〔了解、ハーム発射！〕
ＥＡ―１８Ｇ電子戦攻撃機から、続々とＡＧＭ―８８　ハーム対レーダーミサイルが発射されていく。
そして、続々と命中していった。
〔ビンゴ！〕
〔全く、ステルス戦闘機を投入すりゃ、こんな事やらずに済むのに〕
〔仕方無いだろう。政治家連中は軍事機密が漏れて自分の首が飛ぶのが怖いんだからな。ロシアや中国も同じ考えのようだ〕
〔それで代わりに兵隊の首が飛ぶってか？　安月給に長時間労働、おまけに命の保証は無しときたもんだ。やってらんねぇぜ〕
〔得られるのは退役後のささやかな年金と名誉だけだもんな〕
〔それも貰えるか怪しいもんだ。ま、ここにいるだけで海外派兵勲章は確実だがな〕
その時、アメリカ海兵隊のＦＦＯＰが何かを見つけた。
〔こちらピープ１。旅客ターミナルから、滑走路を挟んだ反対側、何か移動している〕
〔ファングリーダー、コピー。あー、航空機だ。おまけに戦闘機〕
〔スナイパーを覗くまでもない。あんなド派手なカラーリングはマグマ軍に決まってる〕
〔ファングリーダー、こちらトムキャット２２。Ａ―１０、コールサイン・プロウと、Ｆ―２Ａ、コールサイン・スネークが待機している。適宜誘導を行え〕
〔ファングリーダー、コピー。あの見た目は、マグマ軍の戦場戦闘機２９號だな〕
〔耐爆掩蔽壕に隠れていたのか？〕

〔いずれにせよ、潰すのに変わりは無い。こちらファングリーダー、スネークリーダー、聞こえているか？〕
〔スネークリーダー、ばっちりだ〕
〔よし。今、滑走路目掛けてマグマ軍の戦場戦闘機２９號が２機移動中だ。バルカン砲攻撃を要請、レーザーで指示する〕
〔コピー。スネークリーダーから２、３へ。マグマ軍の戦闘機が移動中だ。機銃で攻撃する。グラウラーがレーザーで指示するぞ〕
〔コピー！　ターゲットインサイト！〕
〔ＦＯＸ３！〕
　そして、２機のＦ―２Ａ多用途戦闘機が急降下、２０ｍｍ　Ｍ６１バルカン砲でマグマ軍の戦場戦闘機２９號を破壊した。
〔お見事！〕
〔一昨日来やがれってんだ！〕
〔ファングリーダー、こちらピープ１。駐機場に動きあり――車両だ。４台〕
〔こちらトムキャット２２。低空を移動する物体を発見した。速度と大きさから見て、ヘリコプターの可能性がある。なお、ＩＦＦに反応は無い〕
〔コピー、確認した。車両４台停止、ヘリも着陸態勢に入っている〕
〔ＡＳＦだ！　ＡＳＦの連中が、マグマ軍のヘリに乗ろうとしている！〕
〔コピー！　ファングリーダーからプロウリーダー、武装を教えよ！〕
〔こちらプロウリーダー。３０ｍｍアヴェンジャーにロケット弾、マーベリックにクラスター、何でもあるぜ？〕
〔コピー。ロケット砲に対地攻撃を申請、レーザーで目標を指示する〕
〔コピー。プロウ５、任せたぜ〕
〔こちらプロウ５。コピー。任せてください〕
〔こちらピープ１、ＡＳＦの連中がヘリに乗り込んでいく！　ヘリを優先して攻撃せよ。こちらのポイントは、ＧＳ６３１８。南東から侵入する際は留意されたし！〕
〔コピー！　ターゲットインサイト、レディ！〕

Ａ―１０Ｃ対地攻撃機が爆撃侵入、主翼下のハイドラ　７０ｍｍロケット弾ポッドからロケット弾を乱射した。
〔してやったぜクソッタレ！〕
〔ブラボーデルタアルファ、ブラボーデルタアルファ（Ｂｏｍｂｉｎｇ　Ｄａｍａｇｅ　Ａｓｓｅｓｓｍｅｎｔ、空爆効果評価作業）！　ヘリと車両３台の完全破壊を確認！〕
〔良い腕だ、ブラックキャット〕
〔ホワイティア、ありがとうございます〕
〔こちらトムキャット２２。空港にアメリカ陸軍が突入する。これ以上の航空攻撃は危険がある〕
〔こちらファングリーダー、コピー。野郎共、帰るぞ〕
〔ファングリーダー、忘れ物があったらどうします？〕
〔鉄砲屋の戦闘民族が届けてくれるさ。これ以上留まって、ありがたいお言葉を貰いたくはないだろ？〕
〔ハハッ、その通りですな〕
〔ファングリーダーからスカイアイ４１。コール、ロメオタンゴブラボー（Ｒｅｔｕｒｎ　Ｔｏ　Ｂａｓｅ、帰投宣言）〕
〔こちらスカイアイ４１、コピー。お疲れ〕
〔全くだ。帰ったらビールでも呑むか〕
〔大尉、海の上での飲酒は、恥曝しの刑ですぞ〕
〔ノンアルコールならいいだろうが〕

7th　状況開始

中東アジア、アスラール共和国の国境付近――

「1小隊、準備良し！」

「2小隊、準備良し！」

「総員立てぇ！　即機中、降下準備良し！」

その掛け声と共に、機内の簡易ベンチに座っていた全員が立ち上がる。そして、背負ったパラシュートバッグから伸びるロープを、機内のバーに引っ掛け、引っ張って確認する。

「今回の任務は、捕虜から情報を聞き出して判明した放射線物質を捜索、確保する事だ！　そのためにわざわざ空挺レンジャー資格を取り、そして遠路はるばる中東までやってきた事、危険地帯をわざわざ飛んでもらっている空さんの事を肝に銘じろ！　それでは、地上でまた会おう！」

邀撃戦闘機・F―15MJ　イーグルに護衛された、航空自衛隊の大型戦術輸送機・川崎重工　C―2の貨物室の扉が開いた。

地上からは、先達のアメリカ海兵隊が煙を上げているのが見え、ほぼ無風なのが分かる。

〔コスモ、コース良し、コース良し、用意用意用意！　降下降下降下！〕

機内のランプが赤色から緑色に変わった。

「降下ぁ！」

そして、貨物室両側の扉から、続々と隊員達が飛び出していった。輸送機から離れた所で自動でパラシュートが開く、スタティックライン降下だ。

隊員達が全員降りたのを、坂城2尉と第2小銃小隊小隊長の豊崎和花3等陸尉が確認する。

「1小隊、降下確認！」

「2小隊、降下確認！」

「機内良し！　お世話になりました！」

そして、須恵原1尉と共に貨物室から飛び出した。

機内に引っ掛けたロープが伸びきり、C―2輸送機からある程度離

れた所で背負っていたパラシュートバッグが開き、自動で円形パラシュート――１３式空挺落下傘――が引き出されて展開した。
夕焼け空に、無数の空挺隊員が浮かび、徐々に地上へと降りていく。地面が近くなり、着陸体勢へ。足に括り付けていた、迷彩柄の戦闘背嚢を先に投下、両足を揃える。そして、地面に足が触れた瞬間に重心を後ろへ。でんぐり返りの容量で地面に着地した。
起き上がり、素早くパラシュートを巻いてケースに収める。そして、戦闘背嚢を背負い、肩に掛けていたライフルケースからＭ２７ＩＡＲ重小銃を取り出し、セレクターを「ＳＡＦＥ」から「ＡＵＴＯ」に回し、作動桿を引いて初弾を薬室に送り込む。
「中隊集合！　駆け足！」
防暑服（砂漠迷彩）に防弾チョッキ　３型、８８式鉄帽、そして８９式５．５６ｍｍ小銃　２型を携えた須恵原１尉が叫び、隊員達が集合する。
「我々の目的は、ここから東へ８ｋｍにあるファルジナの奪還及び別動隊との合流、その後にカルバーンに突入する！　坂城２尉率いる１小隊は先行し、狙撃班を潜入させろ！　２小隊　１分隊もついて行け！　状況開始！」

部隊設定

即応機械化中隊（ゼブラ）
本部班…須恵原1尉、仙台3尉、古河2曹
狙撃班（シュガー）…松本2曹、ヨーコ、マドレーヌ、沢城桐子、沢城昌子、照安鞠亜
第1小銃小隊（エーブル）
本部班…坂城2尉、富士3尉、高田3曹
第1分隊
1班…守山准尉、春日井曹長、岐阜3曹、福島士長
2班…習志野1曹、相浦3曹、対馬3曹、国分士長
第2分隊
1班…相馬原准尉、新発田1士、豊川1士、新町1士
2班…朝霞曹長、練馬3曹、富山士長、多賀城士長
第3分隊
1班…健軍1曹、鯖江1曹、湯布院3曹、反町士長
2班…下志津1曹、明野3曹、座間士長、竹松1士
第4分隊
1班…福岡曹長、大村士長、玖珠1士、板妻1士
2班…滝ヶ原准尉、北富士3曹、久居士長、金沢2士
第2小銃小隊（ベーカー）
本部班…豊崎和花3尉、クレア＝F＝プレストン、有馬官奈
第1分隊
1班…西部愛、白根凛、椎名六花、蓮星文奈
2班…宇都宮士長、朝戸未世、豊崎恵那、三田玲美
第2分隊
1班…芙蓉まりこ、小海紗津希、クラリス＝サンティニ、白野継実
2班…來野未明、大庭瀬菜、志熊海衣、志熊羽衣
第3分隊
1班…小泉樹里、大谷留美、新島早苗、立川理央
2班…都城士長、郡山2士、榮倉ミラ、二ノ方ありす

後方支援班…三宿准尉、大宮２曹、土浦３曹、松戸士長、大泉練、上月ひかり、柏木朋子、伽鳥杏奈、新井いちこ

第１戦車小隊（クィーン１）…駒門２曹

１０式戦車

１０式戦車（８ｔｋ）

１０式戦車（１ｔｋ）

１０式戦車改

第２戦車小隊（クィーン２）

９０式戦車

Ｍ１Ａ２戦車

Ｓｔｒｖ―１２２戦車

メルカバＭＫⅣ戦車

第３戦車小隊（クィーン３）

７４式戦車

７４式戦車　Ｇ型

７４式戦車（１０ｔｋ）

マガフ６Ｂ戦車

レオパルドＣ２Ａ１戦車

第４戦車小隊（クィーン４）

Ｔ―９０戦車

Ｔ―７２Ｂ３戦車

Ｔ―９０Ｓ戦車

Ｔ―８４戦車

第１機甲偵察隊（イージィ）

８７式偵察警戒車

８７式偵察警戒車（６ｔｋ）

本郷ももこ、百瀬理子

第２機甲偵察隊（フォックス）

８９式装甲戦闘車

Ｍ３Ａ３騎兵戦闘車

１６式機動戦闘車

１６式機動戦闘車（８ｔｋ）
第１飛行小隊（ヨーク１）…目達原１曹
ＡＨ―１Ｓ攻撃ヘリ
ＡＨ―１Ｓ攻撃ヘリ（４ａｔｈ）
ＡＨ―１Ｓ攻撃ヘリ（３ａｔｈ）
ＡＨ―１Ｗ攻撃ヘリ
第２飛行小隊（ヨーク２）
ＡＨ―６４Ｄ攻撃ヘリ
ＡＨ―６４Ｄ攻撃ヘリ（３ａｔｈ）
ＰＡＨ―２攻撃ヘリ
Ｍｉ―２８Ｎ攻撃ヘリ
第３飛行小隊（ヨーク３）
ＡＶ―２２強襲ヘリ
ＵＨ―１Ｊ改強襲ヘリ
第４飛行小隊（ヨーク４）
ＵＨ―６０ＪＡ汎用ヘリ
ＵＨ―６０ＪⅡ改特殊作戦ヘリ
ＯＨ―６Ｄ改特殊作戦ヘリ
第５飛行小隊（ヨーク５）
ＭＶ―２２Ｊ輸送機
Ａ／ＭＶ―２２Ｊ強襲ヘリ
ＣＨ―４７ＪＡ輸送ヘリ
第１航空偵察隊（タール）
ＯＨ―１改偵察ヘリ（４ａｔｈ）
ＯＨ―１改偵察ヘリ（３ａｔｈ）
野戦特科班（アスキー）
９９式１５５ｍｍ自走榴弾砲
７５式１５５ｍｍ自走榴弾砲
７４式１０５ｍｍ自走榴弾砲
ＦＨ―７０　１５５ｍｍ牽引榴弾砲
防空班（キラー）

８７式自走高射機関砲
ゲパルト対空戦車

装備設定

坂城　大翔２等陸尉……Ｍ２７ＩＡＲ重小銃（ＡＣＯＧスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、グリップポッド）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

富士　御幸３等陸尉……８９式５．５６ｍｍ小銃（Ｍ４ドットサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

高田　沙織３等陸曹……８９式５．５６ｍｍ小銃（スペクターＤＲスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

守山　綾音陸准尉……８９式５．５６ｍｍ小銃　２型（ＡＣＯＧスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

春日井　樹陸曹長……ＭＩＮＩＭＩ軽機関銃（ＡＣＯＧスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

岐阜　歩見３等陸曹……Ｍ６０Ｅ６汎用機関銃（スペクターＤＲスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト）、１２．７ｍｍ　ＧＡＵ―１９／Ｂ多銃身機関銃（レーザーサイト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

福島　烈陸士長……８９式５．５６ｍｍ小銃（Ｍ２ドットサイト、タクティカルライト）、７．６２ｍｍ　Ｍ１３４ミニガン多銃身機関銃（レーザーサイト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

習志野　飛音陸曹長……Ｍ４Ａ１　ＭＷＳ自動小銃（ＥＯＴｅｃｈ５５１ホロサイト、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、シュアファイア　Ｍ９００フォアグリップ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）、Ｍ８７０ＭＣＳ手動散弾銃（ＥＯＴｅｃｈ　ＥＸＰＳ３ホロサイト、タクティカルライト）

相浦　真夏３等陸曹……８９式５．５６ｍｍ小銃（Ｍ２ドットサイト、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）、１１０ｍｍ個

人携帯対戦車弾（パンツァーファウストⅢ）
対馬　まどか3等陸曹……89式5．56mm小銃（EOTech EXPS3ホロサイト、G33マグニファイア、AN／PEQ―16レーザーサイト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、110mm個人携帯対戦車弾（パンツァーファウストⅢ）
国分　霧香陸士長……89式5．56mm小銃（C―MOREドットサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、01式携対戦車誘導弾（軽MAT）
相馬原　未咲陸准尉……MINIMI軽機関銃（スペクターDRスコープ、AN／PEQ―16レーザーサイト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）
新発田　渚1等陸士……89式5．56mm小銃（C―MOREドットサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）
豊川　かるら1等陸士……89式5．56mm小銃（M2ドットサイト、AN／PEQ―16レーザーサイト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、91式携行地対空誘導弾（携SAM）
新町　かんな1等陸士……89式5．56mm小銃（EOTech 553ホロサイト、AN／PEQ―16レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、110mm個人携帯対戦車弾（パンツァーファウストⅢ）、87式対戦車誘導弾（中MAT）
朝霞　美月陸曹長……89式5．56mm小銃（ACOGスコープ、AN／PEQ―16レーザーサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）
練馬　練歌3等陸曹……89式5．56mm小銃（M2ドットサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、91式携行地対空誘導弾（携SAM）
富山　ひみ子陸士長……89式5．56mm小銃（M2ドットサイト、AN／PEQ―16レーザーサイト、タクティカルライト）、USP自動拳銃（タクティカルライト）、110mm個人携帯対戦車弾（パ

ンツァーファウストⅢ）、０１式携対戦車誘導弾（軽ＭＡＴ）
多賀城　直葉陸士長……８９式５．５６ｍｍ小銃（Ｃ―ＭＯＲＥドットサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）、Ｍ２６ＭＡＳＳ手動散弾銃
健軍　サクヤ１等陸曹……６４式７．６２ｍｍ小銃（スペクターＤＲスコープ、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）、９ｍｍ拳銃
鯖江　静香１等陸曹……６４式７．６２ｍｍ小銃（低倍率スコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）
湯布院　陽葵３等陸曹……６４式７．６２ｍｍ小銃（Ｍ２ドットサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）
反町　蘭陸士長……６２式７．６２ｍｍ機関銃（スペクターＤＲスコープ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）
下志津　貴音１等陸曹……６４式７．６２ｍｍ小銃（Ｍ２ドットサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）、９１式携行地対空誘導弾（携ＳＡＭ）
明野　菜摘３等陸曹……６４式７．６２ｍｍ小銃（スペクターＤＲスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）
座間　仁菜陸士長……６４式７．６２ｍｍ小銃（ＥＯＴｅｃｈ５５２ホロサイト、Ｇ３３マグニファイア、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）
竹松　伊織１等陸士……６４式７．６２ｍｍ小銃（Ｃ―ＭＯＲＥドットサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）
福岡　千紗陸曹長……８９式５．５６ｍｍ小銃（ＡＣＯＧスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

大村　直果陸士長……８９式５．５６ｍｍ小銃（Ｃ―ＭＯＲＥドットサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

玖珠　紫織１等陸士……８９式５．５６ｍｍ小銃（Ｃ―ＭＯＲＥドットサイト、シュアファイア　Ｍ９００フォアグリップ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）、０１式軽対戦車誘導弾（軽ＭＡＴ）

板妻　木乃１等陸士……８９式５．５６ｍｍ小銃（ＥＯＴｅｃｈＥＸＰＳ３ホロサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

滝ヶ原　珠洲那陸准尉……８９式５．５６ｍｍ小銃（Ｍ２ドットサイト、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

北富士　彩恵３等陸曹……８９式５．５６ｍｍ小銃（ＡＣＯＧスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

久居　真津梨陸士長……８９式５．５６ｍｍ小銃（ＥＯＴｅｃｈ５５２ホロサイト、タクティカルライト）、ＭＰ７Ａ２短機関銃（ＥＯＴｅｃｈ５５６ホロサイト、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）、８４ｍｍ無反動砲Ｂ（カールグスタフＭ３）

金沢　香林２等陸士……８９式５．５６ｍｍ小銃（ＡＣＯＧスコープ、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

豊崎　和花３等陸尉……６４式７．６２ｍｍ小銃（スペクターＤＲスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト）

クレア＝Ｆ＝プレストン……Ｐ９０短機関銃（タクティカルライト）、Ｆｉｖｅ―Ｓｅｖｅｎ自動拳銃（タクティカルライト）

有馬　官奈……Ｍ３Ａ１グリースガン短機関銃、Ｍ１９１１Ａ１自動拳銃

西部　愛……Ｍ２４９ＰＡＲＡ軽機関銃（ＥＬＣＡＮ　Ｍ１４５スコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト）、Ｍ２４０Ｂ汎用機関銃（ＥＬＣＡＮ　Ｍ１４５スコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイ

ト）、ＦＮＸ―４５自動拳銃（タクティカルライト）
椎名　六花……ＭＫ１８　ｍｏｄ１自動小銃（ＥＯＴｅｃｈ　ＥＸＰＳ３ホロサイト、Ｇ３３マグニファイア、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、ＭＰ７Ａ１短機関銃（Ｔ１ドットサイト、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト）、ＧＳＲ自動拳銃（タクティカルライト）
白根　凛……ＭＫ１８　ｍｏｄ０自動小銃（Ｍ２ドットサイト、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、シュアファイア　Ｍ９００フォアグリップ）、Ｐｘ４　ＳＤストーム自動拳銃（タクティカルライト）、Ｍ５００手動散弾銃（ＥＯＴｅｃｈ５５１ホロサイト、タクティカルライト）
蓮星　文奈……ＳＣＡＲ―Ｈ自動小銃（スペクターＤＲスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、グリップポッド）、ＨＫ４５自動拳銃（タクティカルライト）
宇都宮　瑠璃陸士長……８９式５．５６ｍｍ小銃（Ｍ２ドットサイト、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）、１１０ｍｍ個人携帯対戦車弾（パンツァーファウストⅢ）
朝戸　未世……Ｍ４Ａ１　ＭＷＳ自動小銃（ＡＣＯＧスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、Ｍ２０３擲弾銃）、Ｇ１７自動拳銃（タクティカルライト）
豊崎　恵那……８９式５．５６ｍｍ小銃（ＥＯＴｅｃｈ５５１ホロサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）
三田　玲美……Ｋ２自動小銃（ＥＯＴｅｃｈ５５１ホロサイト）、Ｍ８７０ＭＣＳ手動散弾銃（ＥＯＴｅｃｈ５５１ホロサイト、タクティカルライト）、９０―ｔｗｏ自動拳銃（タクティカルライト）
芙蓉　まりこ……Ｍ２４９　ＭＫ２軽機関銃（スペクターＤＲスコープ）、Ｍ２４０Ｇ汎用機関銃（ＥＬＣＡＮ　Ｍ１４５スコープ）、Ｐ３０自動拳銃（タクティカルライト）
小海　紗津希……Ｍ３２ＭＧＬ回転擲弾銃（専用スコープ、フォアグリップ）、ＭＰ９短機関銃（Ｔ１ドットサイト、タクティカルライ

ト）、Ｍ＆Ｐ９自動拳銃（タクティカルライト）
クラリス＝サンティニ……ＦＡ―ＭＡＳ自動小銃（Ｍ２ドットサイト、タクティカルライト）、ＳＰ２０２２自動拳銃（タクティカルライト）
白野　継実……Ｇ３６自動小銃（タクティカルライト、ＡＧ３６擲弾銃）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）
來野　未明……ＭＧ３汎用機関銃（スペクターＤＲスコープ）、ＵＳＰ４５自動拳銃（タクティカルライト）
大庭　瀬菜……Ｍ７９擲弾銃、チャイナレイク手動擲弾銃、ＵＭＰ４５短機関銃（Ｍ２ドットサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、Ｍ４５Ａ１自動拳銃（タクティカルライト）
志熊　海衣……ＭＰ５Ａ５短機関銃（Ｍ２ドットサイト、タクティカルライト）、Ｐ２２６Ｒ自動拳銃（タクティカルライト）
志熊　羽衣……ＭＰ５Ａ４短機関銃（Ｍ２ドットサイト、タクティカルライト）、Ｐ２２９Ｒ自動拳銃（タクティカルライト）
小泉　樹里……Ｇ３６Ｃ自動小銃（Ｍ２ドットサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、Ｐ２０００自動拳銃（タクティカルライト）
新島　早苗……Ｍ９３３自動小銃（ＥＯＴｅｃｈ５５１ホロサイト、タクティカルライト）、Ｍ８７０ブリーチャー手動散弾銃、Ｇ３４自動拳銃（タクティカルライト）
大谷　留美……ＳＣＡＲ―Ｌ自動小銃（ＡＣＯＧスコープ、タクティカルライト、フォアグリップ）、Ｍ５９０６自動拳銃
立川　理央……ＡＲ２１自動小銃（ＥＯＴｅｃｈ５５２ホロサイト、タクティカルライト）、ジェリコ９４１Ｌ自動拳銃（タクティカルライト）
都城　美陽陸士長……８９式５．５６ｍｍ小銃（スペクターＤＲスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）
郡山　未冷２等陸士……８９式５．５６ｍｍ小銃（Ｍ２ドットサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

榮倉　ミラ……Ｍ２７ＩＡＲ自動小銃（スペクターＤＲスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、バイポッド）、ＲＰＫ重小銃、ＡＫ１０１自動小銃（ＥＯＴｅｃｈ５５１ホロサイト、タクティカルライト）、ＭＰ４４３自動拳銃（タクティカルライト）

二ノ方　ありす……クリスベクター短機関銃（ＥＯＴｅｃｈ５５２ホロサイト、タクティカルライト、フォアグリップ）、Ｇ２１自動拳銃（タクティカルライト）

松本　亜衣璃２等陸曹……Ｍ２４Ｅ１対人狙撃銃（可変倍率スコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、バイポッド）、Ｍ９５対物狙撃銃（可変倍率スコープ、バイポッド）、８９式５．５６ｍｍ小銃　２型（ＥＯＴｅｃｈ５５２ホロサイト、タクティカルライト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

ヨーコ……ＨＫ４１６自動小銃（スペクターＤＲスコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、バイポッド）、Ｐ２２６Ｒ自動拳銃（タクティカルライト）

マドレーヌ……ヘカートⅡ対物狙撃銃（可変倍率スコープ、バイポッド）、ＦＡ―ＭＡＳ自動小銃（Ｍ２ドットサイト、Ｇ３３マグニファイア、タクティカルライト）、ＰＡＭＡＳ　Ｇ１自動拳銃、ＭＲ９６回転拳銃

沢城　桐子……Ｍ２４Ａ２対人狙撃銃（可変倍率スコープ、バイポッド）、ＡＲＸ１６０Ａ２自動小銃（スペクターＤＲスコープ、タクティカルライト、フォアグリップ）、Ｍ１７自動拳銃（タクティカルライト）

沢城　昌子……Ｍ２７ＩＡＲ重小銃（可変倍率スコープ、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト、タクティカルライト、バイポッド）、Ｐ３２０自動拳銃（タクティカルライト）

照安　鞠亜……Ｍ８２Ａ２対空／対物狙撃銃（可変倍率スコープ、バイポッド）、ＭＰ５Ｋ　ＰＤＷ短機関銃（ＥＯＴｅｃｈ５５２ホロサイト、タクティカルライト）、ＸＤＭ―９自動拳銃（タクティカルライト）

本郷　ももこ……ＭＰ５Ｆ（ＪＰ）短機関銃（Ｍ４ドットサイト）、

Ｍ９２バーテック自動拳銃（タクティカルライト）、ＦＧＭ―１４８
ジャベリン対戦車ミサイル
百瀬　理子……８９式５．５６ｍｍ小銃　２型（ＥＯＴｅｃｈ５５１ホロサイト、ＡＮ／ＰＥＱ―１６レーザーサイト）、ＵＳＰ自動拳銃（タクティカルライト）

その他
Ｍ２６Ａ２Ｊ破片手榴弾
ＭＫ３Ａ２攻撃手榴弾
Ｍ８４音響閃光手榴弾
催涙球２型
焼夷手榴弾
Ｍ１８発煙手榴弾
ＭＫ１照明手榴弾
ＳＩＭＯＮ１２０扉破砕小銃擲弾
Ｍ８７０ブリーチャー手動散弾銃
軽装甲機動車（１２．７ｍｍ　Ｍ２重機関銃）
軽装甲機動車（７４式７．６２ｍｍ車載機関銃）
９６式装輪装甲車（１２．７ｍｍ　Ｍ２重機関銃、ＭＩＮＩＭＩ軽機関銃）
高機動車
１／２ｔトラック（パジェロ）
Ｍ―ＡＴＶ機動装甲車（１２．７ｍｍ　Ｍ２重機関銃）
偵察オートバイ
装甲サイドカー（７４式７．６２ｍｍ車載機関銃）

敵対勢力

マグマ軍

小火器

マカロフＰＭ自動拳銃

ＰＰＳ―４３短機関銃

ＫＳ―２３手動散弾銃

ＡＫＳ―７４自動小銃

ＲＰＫ―７４重小銃

ＰＫＭ汎用機関銃

ＡＮ―９４狙撃小銃

ＳＶＤ対人狙撃銃

ＯＳＶ―９６対物狙撃銃

ＧＰ―２５擲弾銃

ＲＰＧ―７対戦車ロケットランチャー

小火器（特殊部隊用）

スチェッキン機関拳銃

ＯＴｓ―０２短機関銃

ＡＰＳ水中自動小銃

ＯＴｓ―１４自動小銃

ＡＳヴァル消音自動小銃

ＳＶＤＳ対人狙撃銃

ＶＳＳ消音対人狙撃銃

重火器

７．６２ｍｍ　ＤＴ車載機関銃

１２．７ｍｍ　ＤＳｈＫＭ重機関銃

１４．５ｍｍ　ＫＰＶ重機関銃

車両

重戦車０１４號

重戦車１號１型

重戦車８０號

重戦車７２號
重戦車６４號
重戦車６０號
中戦車５４號
中戦車３４號２型
突撃砲１５２號
歩兵戦闘車２號
ＢＴＲ―８０装輪装甲兵員輸送車
コブラ機動装甲車
ＢＲＤＭ―２偵察装甲車
ＵＡＺ―４６９多用途車
ＧＡＺ―６６中型トラック
Ｕｒａｌ―４３２０大型トラック
対空戦車２３號４型
対空戦車２２２號
火砲等
１２２ｍｍ　Ｄ―３０牽引榴弾砲
１５２ｍｍ　ムスタＢ牽引榴弾砲
１５２ｍｍ　自走榴弾砲３號
２０３ｍｍ　自走榴弾砲７號
多連装噴進砲２１號
多連装噴進砲Ｔ１號
航空機
攻撃ヘリ２４號
攻撃ヘリ５０號
攻撃ヘリ６４號Ｅ型
Ｍｉ―８汎用ヘリ
Ｍｉ―１７輸送ヘリ
防空戦闘機２７號ＳＭ型
戦場戦闘機２９號Ａ型
艦上戦闘機１４號ＡＭ型

軽戦闘機５號Ｅ型
戦闘爆撃機４號Ｅ型
戦闘爆撃機２４號Ｍ型
対地攻撃機２５號ＳＭ型
戦略爆撃機２２號ＭＥ型

アラブ社会主義連盟（ＡＳＦ）
小火器
Ｇ１９自動拳銃
ＰＣ―９自動拳銃
カラカル自動拳銃
ＵＺＩ短機関銃
Ｍ８８ブルパップ手動散弾銃
ガリルＡＲ自動小銃
ガリルＡＣＥ２３自動小銃
ＸＭ２３Ｅ２自動小銃
ＨＫ３３Ｅ自動小銃
ＦＡＪＲ―２２４自動小銃
ＦＮＣ自動小銃
５．５６Ａ―９１自動小銃
ＡＵＧ　Ａ２自動小銃
ＶＨＳ―Ｄ自動小銃
ＫＨ―２００２カイバー自動小銃
９７Ｂ式５．５６ｍｍ自動小銃
Ｇ３Ａ６自動小銃
ＦＡＬ自動小銃
Ｕ―１００　ＭＫ５重小銃
ＸＭ２０７Ｅ２軽機関銃
ＨＫ２３Ｅ軽機関銃
ＨＫ２１Ｅ汎用機関銃
ＭＧ３汎用機関銃

M91狙撃小銃
ガラッツ対人狙撃銃
JNG—90対人狙撃銃
シャバシュ対人狙撃銃
HS・50対物狙撃銃
サーエゲ噴進擲弾銃
RPG—7対戦車ロケットランチャー
M47　ドラゴン対戦車ミサイル
9K115—2　メティスM対戦車ミサイル
重火器
12・7mm　DShKM重機関銃
7・62mm　Akhgar多銃身機関銃
23mm　Asefeh多砲身機関砲
トゥーファン2対戦車ミサイル
車両
M1A1M主戦車
T—72S主戦車
T—72Z中戦車
トーサン軽戦車
ACV—300歩兵戦闘車
BTR—4装輪歩兵戦闘車
パトリア装輪装甲兵員輸送車
M1117機動装甲車
ニムル機動装甲車
RG—31機動装甲車
VN—3偵察装甲車
メガクルーザー多用途車
ランドクルーザー武装SUV
FJクルーザー武装SUV
ハイラックス武装ピックアップトラック
GAZ—66中型トラック

Ｕｒａｌ―３７５大型トラック
アエロサン
火砲等
１５５ｍｍ　ソルタムＭ７１牽引榴弾砲
１７０ｍｍ　Ｍ１９７８コクサン自走榴弾砲
１２０ｍｍ　ＡＭＶ装輪自走迫撃砲
ＨＭ２０装輪多連装ロケット砲
スカッド短距離弾道ミサイル
バビロン多薬室砲
航空機
パンハ２０６１偵察ヘリ
ＡＨ―１Ｊ攻撃ヘリ
パンハ２―７５汎用ヘリ
ＣＨ―４７Ｃ輸送ヘリ
サーエゲ軽戦闘機

用語解説

中央混成連隊

地底特殊甲種害獣（通称・マグマ軍）によって占領された国土を奪還するため、稲木　菜央防衛大臣（当時）の命で設立された即応機動部隊。元第1空挺団小隊長・土居内　佳樹3等陸尉（当時）を指揮官に、様々な隊から選抜した女性自衛官と余剰兵器で編成された。関東奪還作戦において重要な役割を担い、「関東奪還の英雄」と言われている。

自動拳銃

英訳は「Ｓｅｍｉ―ａｕｔｏｍａｔｉｃ　Ｐｉｓｔｏｌ」。遊底（スライド）が前後する事で連発出来る拳銃の事。元々は指揮官や戦車兵、砲兵やパイロットの自衛武器だったが、最近では市街戦用に一般兵も所持するようになった。

回転拳銃

英訳は「Ｒｅｖｏｌｖｅｒ　Ｐｉｓｔｏｌ」。自動拳銃が出てきてすぐの頃までは広く使われており、今なお警察や市民の自衛用として利用されている。

短機関銃

英訳は「Ｓｕｂ　ｍａｃｈｉｎｅ　ｇｕｎ」。拳銃用の弾を使う、小型の機関銃。第一次世界大戦の際に、ドイツ軍が塹壕内戦闘用に開発したのが最初。現在では、自動小銃の登場により、警察や軍用機パイロットくらいしか使わない（だが、警察でもテロリストが防弾チョッキを着るようになり、短機関銃では威力不足であるとして、自動小銃に切り替えるようになってきた）。

手動散弾銃

英訳は「Ｓｌｉｄｅ―ａｃｔｉｏｎ　ｓｈｏｔｇｕｎ」。日本国内

では「ポンプアクション式ショットガン」と呼ばれたりする。先台（フォアエンド）をスライドさせる事で排莢を行う。利点として、「故障が殆ど無い」、「様々な弾を問題無く使える」が上げられる。

自動散弾銃

英訳は「Ｓｅｍｉ－ａｕｔｏｍａｔｉｃ　ｓｈｏｔｇｕｎ」。反動を利用して排莢する。制圧力は高いが、柔軟性が無い（一応様々な弾を使えるが、その度に規整子を調整しなくてはならない）。

自動小銃

英訳は「Ａｓｓａｌｕｔ　ｒｉｆｌｅ」。短小弾というジャンルの弾を使用出来るライフル銃。世界初はドイツのｍｋｂ４２やアメリカのＭ１カービン、はたまたロシア帝国のフェデロフ　Ｍ１９１６とか言われている。

重小銃

英訳は「Ｉｎｆａｎｔｒｙ　ａｕｔｏｍａｔｉｃ　ｒｉｆｌｅ」。自動小銃と軽機関銃の中間的存在。「無駄に重い自動小銃」、「精度のいい自動小銃」、「制圧射撃が出来ない軽機関銃」と思えばいいと思う（雑）。

手動小銃

英訳は「Ｂｏｌｔ－ａｃｔｉｏｎ　ｒｉｆｌｅ」。自動小銃が登場する前の歩兵の友。現代では、狙撃銃のベースか、オリンピック競技くらいでしか見ないのだが……。

軽機関銃

英訳は「Ｌｉｇｈｔ　ｍａｃｈｉｎｅ　ｇｕｎ」。自動小銃と同じ弾を使う、軽量な機関銃。冷戦真っ只中に定義ががらりと変わり（自動小銃の大幅な更新に伴い）、二次大戦と現代では全く異なっている。

汎用機関銃
英訳は「Ｇｅｎｅｒａｌ　ｐｕｒｐｏｓｅ　ｍａｃｈｉｎｅ　ｇｕｎ」。かつて軽機関銃と呼ばれていた機関銃。殆どの場合、対人狙撃銃と同じ弾を使う。汎用機関銃の礎と言われるのは、ナチスドイツのＭＧ４２である（通称・ヒトラーの電動ノコギリ）。

狙撃小銃
英訳は「Ｓｈａｒｐ―ｓｈｏｏｔｅｒ　ｒｉｆｌｅ」、もしくは「Ｍａｒｋｓｍａｎ　ｒｉｆｌｅ」。自動小銃を狙撃出来るように改造したもの。専用の狙撃銃よりは精度が劣る。

対人狙撃銃
英訳は「Ｓｎｉｐｅｒ　ｒｉｆｌｅ」、もしくは「Ｓｎｉｐｅｒ　ｓｙｓｔｅｍ」。つまり普通の狙撃銃。手動と自動に分けられるが、近年の自動対人狙撃銃の精度は馬鹿に出来ない。

強装対人狙撃銃
・３３８ラプアマグナム弾や・３００ウィンチェスター弾といった、対物狙撃銃程ではないが対人狙撃銃より強力な弾を使う銃。「従来の対人狙撃銃では射程不足、でも対物狙撃銃は重過ぎる」という要求によって生まれた。

対物狙撃銃
英訳は「Ａｎｔｉ―ｍａｔｅｒｉａｌ　ｒｉｆｌｅ」。重機関銃に使うような弾を使う、馬鹿デカい狙撃銃。人間がかろうじて持ち上げられるサイズ。爆発物処理や敵装備・車両の破壊に使う。人間相手に使うと、「ミンチよりひでぇや」になる。

擲弾銃
英訳は「Ｇｒｅｎａｄｅ　ｌａｎｃｈｅｒ」。爆発する擲弾という弾を発射する。元々、「迫撃砲と手榴弾の間を埋める武器」として、旧

日本軍の八九式重擲弾筒とナチスドイツのカンプピストルを参考にアメリカが作った（それがＭ７９擲弾銃）。その後、「自動小銃にくっつけられる便利な奴」として、Ｍ２０３擲弾銃が作られた。さらには、ＭＫ１９や９６式の機関銃タイプ、Ｍ３２ＭＧＬのリボルバータイプ、チャイナレイクの散弾銃タイプが作られた。

車載機関銃

汎用機関銃を改造し、戦車や装甲車、ヘリコプターに積めるようにした物。重量を気にせず設計出来るため、汎用機関銃より頑丈。

重機関銃

英訳は「Ｈｅａｖｙ　ｍａｃｈｉｎｅ　ｇｕｎ」。とりあえずデカい機関銃。アメリカのブローニング　Ｍ２が世界最高傑作と言われ、第二次世界大戦から現代までずっと使われている。冷戦期にアメリカが後継を作ったが、耐久性で負けた。最早Ｍ２はオーパーツか何か。フォークランド紛争では、アルゼンチン軍が１２．７ｍｍ　Ｍ２重機関銃にスコープを取り付け、２０００ｍ先のイギリス軍を狙撃した事があり、これを機に対物狙撃銃が作られた。

主戦車

英訳は「Ｍａｉｎ　ｂａｔｔｌｅ　ｔａｎｋ」。二次大戦の中戦車をそのまま大きくした、戦後戦車の主流。冷戦期は対ＮＢＣ能力が、現在では市街戦能力やデータリンク能力が求められる。

中戦車

英訳は「Ｍｉｄｄｌｅ　ｔａｎｋ」。機動力と戦闘能力のバランスを重視した戦車。戦後は主戦車に分類されるようになる。

軽戦車

英訳は「Ｌｉｇｈｔ　ｔａｎｋ」。機動力を重視した戦車で、偵察を主任務とする。ただ、戦後はすっかり廃れた。

装輪戦車
英訳は「Ｗｈｅｅｌ　ｔａｎｋ」。現代版軽戦車。タイヤで走るため、機動力が高い。その代償として、防御力や安定性が低くなっている。

歩兵戦闘車
英訳は「Ｉｎｆａｎｔｒｙ　ｆｉｇｈｔｉｎｇ　ｖｅｈｉｃｌｅ」。歩兵を運ぶ装甲車に、機関砲や小口径砲を搭載したもの。防御力は普通の装甲車、価格は主戦車並みという訳で、数は多くない。

装輪歩兵戦闘車
英訳は「Ｗｈｅｅｌ　ｉｎｆａｎｔｒｙ　ｆｉｇｈｔｉｎｇ　ｖｅｈｉｃｌｅ」。タイヤで走る歩兵戦闘車。戦闘能力そのままにコストダウン出来るので、近年増えている。

装輪装甲兵員輸送車
英訳は「Ｗｈｅｅｌ　ａｒｍｅｄ　ｐｅｒｓｏｎａｌ　ｃａｒ」。稀に「Ｂａｔｔｌｅ　ｔａｘｉ」とも呼ばれる。１０人程度の歩兵を運ぶための大型装甲車。武装は重機関銃程度で、戦闘能力はお察しください。ただ、市街戦での火力支援には充分だし、ハッチからは対戦車ミサイルも撃てる。

機動装甲車
英訳は「Ｉｎｆａｎｔｒｙ　ｍｏｂｉｌｅ　ｖｅｈｉｃｌｅ」。４人乗り程度の小型装甲車。市街戦における小回りを重視している。成功例として、軽装甲機動車がある（自衛隊内からの評価は散々だが）。

多用途車
所謂ジープの類。装甲は無いが、輸送に偵察、伝令と多くの任務を

こなせる。ジープより先に、日本が九五式軍用自動車というのを実用化していたが、あまり知られていない。更に前では、サイドカー付オートバイが使われていた。

偵察装甲車
偵察用の装甲車。機関砲を有し（一部は重機関銃）、タイヤで走る。戦闘能力は無く、あくまでも気休め程度の装甲。

武装ＳＵＶ
テクニカルの一種。民間のＳＵＶに重機関銃を搭載したもの。装甲は無い。

武装ピックアップトラック
テクニカルと言えばこっち。やはり装甲は無い。だいたいトヨタかフォード製が利用され、敵味方共トヨタのピックアップトラックを使ったがために「トヨタ戦争」と呼ばれた事も。

攻撃ヘリ
英訳は「Ａｔｔａｃｋ　ｈｅｌｉｃｏｐｔｅｒ」。元々、ベトナム戦争時に「汎用ヘリに随伴出来る、対地攻撃能力のみを有するヘリコプター」が必要とされて作られた。当時は車載機関銃やロケット弾ポッド程度だったが、後に対戦車ミサイルや機関砲を積むようになった。

偵察ヘリ
英訳は「Ｏｂｓｅｒｖａｔｉｏｎ　ｈｅｌｉｃｏｐｔｅｒ」。武装は車載機関銃やロケット弾ポッド（一部空対空ミサイル）のみで、偵察や着弾観測を専門とする小型ヘリ。

汎用ヘリ
英訳は「Ｍｕｌｔｉｐｕｒｐｏｓｅ　ｈｅｌｉｃｏｐｔｅｒ」。戦争は地獄だぜ！　え、違う？　１０人程の歩兵を運べる中型ヘリ。武

装は機関銃のみ（一部の国ではロケット弾ポッドや対戦車ミサイル）。陸上自衛隊では偵察オートバイを積むという無茶をやった。

制空戦闘機
英訳は「Ａｉｒ　ｓｕｐｅｒｉｏｒｉｔｙ　ｆｉｇｈｔｅｒ」。敵機を叩き落とす為の戦闘機。近年減少中。

多用途戦闘機
英訳は「Ｍｕｌｔｉｒｏｌｅ　ｆｉｇｈｔｅｒ」。対地攻撃能力を有する単座の戦闘機。近年増加中。

戦闘爆撃機
英訳は「Ｆｉｇｈｔｅｒ－ｂｏｍｂｅｒ」。対地攻撃能力を有する双発複座の戦闘機。

戦闘攻撃機
英訳は「Ｆｉｇｈｔｅｒ－ａｔｔａｃｋｅｒ」。対地攻撃能力を有する単発複座の戦闘機。

８ｔｈ　これより排除する

目の前――というより、双眼鏡で覗いた先の景色は、敵しかいなかった。
「こんな明るい内に突入ですか？　どうぞ撃ってくださいと言ってるようなもんですよ」
砂丘に隠れ、双眼鏡から目を離した西部が、須恵原１尉に問う。が、須恵原１尉は口を開いた。
「既に、連中は機甲師団が接近しているのに気付いている。夜まで待っていたら、守備部隊を増やされて、この町が廃墟か更地になってしまう。坂城２尉、さっき言った通りに狙撃班を先に潜入させ、我々も続く」
その指示に、坂城２尉が応える。
「了解。１―２、２―２、狙撃班のエスコートと進入路の確保だ」
すると、朝霞が須恵原１尉に質問した。
「須恵原１尉、ＲＯＥ（Ｒｕｌｅ　Ｏｆ　Ｅｎｇａｇｅｍｅｎｔ、交戦規則）は？」
「武装している者、無線や携帯を持っている者は容赦するな。後者と一般人の区別は難しいだろうが、そこは徹底してくれ。海外で自衛隊の評判を落とす訳にはいかないからな」
「了解」
「よし、前進だ。何かあれば、ここから支援射撃をする。スナイパーには気を付けろ」
「了解。皆、前進」
そして、１４人が移動を開始した。

アスラール共和国の首都・エルダビアから南西に１８０ｋｍの所にある街、ファルジナ。ペルシャ湾に面した港町から運ばれてくる物資は、必ずここを通ってエルダビアへ向かう、云わば交通の要所であった。
「いた。ＡＳＦ兵士、２人。奥には……誰もいない」

１４人は壁伝いに移動し、ファルジナに潜入するのに成功した。そして、先導していた国分が、曲がり角で敵を見つける。
「私が奥のをやる。相浦は手前を。くれぐれもヘボをするなよ？」
「これだから元１空は嫌いなんだ」
愚痴りながらも、相浦は８９式多用途銃剣を取り出す。すると、習志野がレッグホルスターからＵＳＰ自動拳銃を抜きながら返した。
「好き嫌いなら、日本に帰ってから聞いてやる。やるぞ」
延長銃身の銃口カバーを外し、減音制退器（サウンドサプレッサー）を装着。弾倉を外し、代わりに緑色の弾丸――亜音速弾――が入った弾倉を装填、遊底をスライドする。
２人は曲がり角に並び、習志野は立って、相浦は片膝を地面に付ける。
「ゴー」
習志野はＵＳＰ自動拳銃で発砲、相浦が近くにいたＡＳＦ兵士に駆け寄り、頸を８９式多用途銃剣で突く。
くぐもった銃声と共にＡＳＦ兵士が倒れ、相浦が８９式多用途銃剣を引き抜く。
「クリア」
「移動する。松本、あれとかはどうだ？」
レッグホルスターにＵＳＰ自動拳銃を仕舞いながら、習志野が通りの向かいのビルを指差す。
「使える。沢城チームはあっちのビルへ。発砲はまだ」
「了解」
直ちに二手に分かれ、警戒しながら通りを渡る。
「よし、行くよ」
朝霞が言い、隊員達――練馬、富山、多賀城、沢城桐子、沢城昌子、照安――が頷いた。
扉を開け、中に入る。中は暗く、窓も無い。
７人は警戒しながら、静かに進む。曲がり角を確認した練馬が左手でグーサインを出し、入り口を警戒していた富山の肩を朝霞が叩き、進む。

突き当たりの階段を、ゆっくりと登る。
４階へと登った先には、マグマ軍歩兵の後ろ姿。
朝霞がハンドサインを出し、多賀城が腰に提げていた短刀〈白之紫〉を鞘から抜く。そして、マグマ軍歩兵の背後から近付き、左手でマグマ軍歩兵の口を抑え、右手の〈白之紫〉で首を斬った。
（富山士長、多賀城１士は右手の部屋を。私と練馬は左手の部屋を制圧する。狙撃班は階段を警戒）
朝霞がハンドサインで指示を出し、皆頷く。そして分かれた。
富山と多賀城が扉の前に立ち、頷き合う。そして、扉をゆっくり開けた。そこには、窓際でＰＫＭ汎用機関銃を伏せて構えるマグマ軍歩兵と、隣でＡＫ―７４自動小銃を床に置き、双眼鏡で監視するマグマ軍歩兵。幸い意識は窓の外、南側を見ている。
２人は８９式多用途銃剣と〈白之紫〉を抜き、ゆっくり近付く。そして、首をさくっと斬った。
〔クリア。こっちは見晴らしがいいわ〕
「こっちもクリア。南側が見える」
「多国籍軍が攻めてくる方だ」
〔こっちなら、北も見えるわよ〕
〔了解、そちらに向かう〕
通信を終え、富山はＰＫＭ汎用機関銃を持ち上げた。
「これより南側を監視する。万が一あったら直ぐに知らせる」
〔了解。気を付けてよ〕
「ああ」
富山は伏せ、ＰＫＭ汎用機関銃の尾筒蓋（フィードカバー）を開いて、装弾を確認した。
沢城達は移動し、朝霞達が制圧した部屋に入る。窓は、北・西・東それぞれにあり、確かに視界がいい。
桐子は背負っていたＭ２４Ａ２対人狙撃銃を手にし、銃口に減音制退器を装着し、作動桿を引いた。
「こちらシュガー４。配置に着いた」
〔シュガー１、了解。シュガー１よりゼブラ、準備良し〕

〔ゼブラ、了解。移動する〕
砂丘に隠れていた、残りのメンバーが移動を開始した。
「お姉ちゃん、敵の見張り」
「確認した」
観測用単眼鏡を覗いていた昌子が、ビルの屋上にＡＳＦ兵士を見つけた。
「シュガー４からゼブラ。敵の見張りを発見した。これより排除する」
〔ゼブラ了解。全員、止まれ〕
並べたテーブルの上に伏せた桐子は、深呼吸をする。
「距離は？　だいたい２６０ｍ？」
「２６４ｍ、撃ち下ろし１４。。ほぼ無風」
観測用単眼鏡のレーザー測距機能や水平儀、周りの景色からの情報を、昌子は桐子に伝える。
スコープの規正距離（ゼロイン）は４００ｍ、覚えている数値を元にスコープのダイヤルを回す。
スコープの倍率は最小、十字型照準線がＡＳＦ兵士と重なる。
引き金に触れ、スコープが上下に揺れるのが治まるのを待つ。そして、引き金を引いた。

９ｔｈ　撃ちまくれ

桐子が放った７．６２×５１ｍｍ　ＮＡＴＯ弾は、向かいのビルの屋上でシャバシュ対人狙撃銃を構えていたＡＳＦ兵士に命中した。

「ヒット、その横にスポッター」

昌子がそう報告し、桐子がＭ２４Ａ２対人狙撃銃の作動桿を引いて排莢させる。

即座に狙いをずらし、敵観測手を捉えた。そして再び、引き金を引いた。

〔シュガー４よりゼブラ。敵スナイパーを排除した〕

「ゼブラ了解。移動を再開する」

再び即応機械化中隊が分隊毎に分かれて移動する。

しかし、ベイカー１―１が曲がり角でＡＳＦ兵士と遭遇してしまった。

ＡＳＦ兵士はＦＮＣ自動小銃を構え、発砲しようとする。が、椎名が素早くＦＮＣ自動小銃の被筒を掴んで狙いを逸らす。そして、フルオートで吐き出された５．５６×４５ｍｍ　ＳＳ１０９弾は虚空目指して飛んでいき、銃声が静かな街に鳴り響く。そして椎名はコンバットナイフを抜き、ＡＳＦ兵士の首に押し当てる。そのまま壁まで押し、体重を掛けてＡＳＦ兵士の首にコンバットナイフをめり込ませる。刃が動脈に達したのか、血が噴き出す。そして、暴れるＡＳＦ兵士の動きが止まった。

「ベイカー１―１、敵に発砲されてしまった！」

椎名が頭に着けたヘッドセットに繋がった、コータムⅡ（広域多目的無線機　Ⅱ型）に叫ぶ。

〔ゼブラ了解！　畜生、撃ちまくれ！　遠慮など要らん！　ゼブラチャーリーからニアボアブラザー！　大至急チャーリーアルファシエラを送れ！〕

〔トムキャット２２、コピー。まだＡＡ（Ａｎｔｉ―ａｉｒｃｒａｆｔ　Ａｒｔｉｌｌｅｒｙ、対空兵器）狩りが行われていないため、送れるのはＦ―１６のみだ〕

即座に障害物に隠れ、戦闘態勢を整える。Ｇ３３マグニファイアをＥＯＴｅｃｈ　ＥＸＰＳ３ホロサイトに重ね、赤い照準点を拡大する。そして、交差点の角から出てきたＡＳＦ兵士達を狙った。
「南３０ｍ、ライフル兵８人！」
「了解、射撃する！」
ＭＫ１８　ｍｏｄ１自動小銃、ＭＫ１８　ｍｏｄ０自動小銃、ＳＣＡＲ―Ｈ自動小銃が５．５６×４５ｍｍ　普通弾（Ｃ）と７．６２×５１ｍｍ　ＮＡＴＯ弾をばらまき、ＡＳＦ兵士達を倒す。
「畜生、始まりやがった！」
床に伏せた富山がＰＫＭ汎用機関銃を構え、壁に開いた穴から射撃する。５．５６Ａ―９１自動小銃を持ったＡＳＦ兵士が道路を横断し、それを倒した。
「まずい、逃げろ！」
多賀城が叫び、富山のＹシャツの後ろ襟を掴んで引き上げる。富山はＰＫＭ汎用機関銃を捨て、急いで部屋の隅へ飛び移った。
直後、外に面していた壁が吹き飛んだ。
「グレネードかよ！」
「富山士長、怪我は!?」
「ああ、大丈夫だ」
富山は立ち上がり、投げ出された８９式５．５６ｍｍ小銃を持ち上げた。
〔ひみ子さん、何が起きたの!?〕
「大丈夫だ朝霞。グレネードを撃ち込まれただけ――」
その時、多賀城が８９式５．５６ｍｍ小銃を発砲した。見れば、ぽっかりと吹き飛んだ壁の外には、ＡＳＦ兵士やマグマ軍歩兵が集まり始めていた。
「まずい、敵が集まり始めている！」
〔分かったわ。移動しましょう〕
「どうやってだよ。外には敵がいるんだぜ？」
〔屋上よ。屋根伝いに移動すれば行けると思うわ。階段で集合〕
「了解。行くぞ」

「承知した」
２人は部屋を出た。
階段で落ち合った7人は、更に階段を登り、屋上までやってきた。
「直葉さんが扉を開けて。ひみ子さんと練馬は外を警戒」
朝霞の指示に従い、多賀城がドアノブに手を掛ける。
「ゴー」
扉が開き、富山と練馬が８９式5．５６ｍｍ小銃の銃口を外に向けた。
「クリア」
ゆっくりと外に出て、死角を確認する。
「行けるわ、イケちゃうわ」
「移動するわ。敵スナイパーに警戒」
「ちょっ!?　スルー!?」
１人文句を垂れるが、７人は屋上を移動し、縁に着いた。照安が向かいのビルまでの間を見、下を覗き込む。向かいまでの距離は５ｍ、下まで４０ｍといった所か。
「これは無理な話よ」
Ｍ８２Ａ２対空／対物狙撃銃を背負い、ＭＰ５Ｋ　ＰＤＷ短機関銃を手にした照安がそう言うと、練馬が屋上に転がっていた梯子を見つけた。
近寄って持ち上げ、頑丈か確かめる。
「硬さも長さもバッチリよ」
「練馬、狙って言ってる?」
朝霞の問い掛けに、練馬は肩をすくめるだけだった。
高さ８ｍはあろう梯子を、練馬と多賀城が持ち上げ、向かいのビルの屋上へと掛ける。
「１人ずつ渡りましょう」
「あたしに任せろ」
富山は８９式5．５６ｍｍ小銃を右手だけで保持し、四つん這いで梯子を渡る。他のメンバーは向かいのビルを警戒する。
「こっちからはあられも無いアングルね。ひみ子ちゃん、意外と――」

「見んじゃねぇよ！」
練馬の発言に怒鳴る富山。
そして渡りきった。
「クリアだ。ついて来ていいぜ」
「練馬、先に渡りなさい」
朝霞がそう言い、練馬が不服そうな顔をした。
「何でよ。最後がいいわ」
「全員のパンツ見る気でしょ。帰ったら警務隊に通報するから」
「パンツじゃなくてパンティよ！」
「どっちでもいいから早く渡りなさい！」
朝霞が練馬の尻を蹴り、渋々練馬も四つん這いになる。
「幼馴染への扱い酷くない？　あ、もしかして私の――」
「冗談じゃない。幼馴染と思った事はコンマ０秒も無いわ」
「やっぱり酷いわ」
練馬が渡り、多賀城、朝霞、桐子、照安、昌子の順に梯子を渡り終えた。直後――
「＄→☆§Å♪↗♂∴×＝▪％ヰ‰▽∩▼※！」
階段からＡＳＦ兵士が飛び出してきて、ＫＨ―２００２カイバー自動小銃で５．５６×４５ｍｍ　ＳＳ１０９弾をフルオートでばらまく。
「練馬がさっさと渡らないから！」
「私の所為⁉」
７人は咄嗟に伏せ、昌子と朝霞が反撃を行う。
しかし、ＡＳＦ兵士が次々と湧いて出てくる。
「キリが無い！　ＲＧ（Ｒｉｆｌｅ　Ｇｒｅｎａｄｅ、小銃擲弾）で階段を吹き飛ばせ！」
「おうよ！」
富山は８９式５．５６ｍｍ小銃の銃口に０６式小銃擲弾を差し込み、銃床を肩に当てて階段を狙う。そして、引き金を引いた。
階段が見事吹き飛んだ。多賀城や練馬が残りの敵を掃討する。
そして７人は移動を再開した。

１０ｔｈ　爆弾です

ビルの階段を駆け下り、７人は道路に面したドアまでやってきた。
「よし、富山さんが開けて」
朝霞の指示に富山は頷き、ドアを手前に引いて開け放つ。通りに人の姿は見えないが、遠くから銃声が鳴り響いている。
「ゴー」
朝霞の言葉と共に、富山と多賀城が飛び出し、一気に道の反対側へと渡る。
渡り切った２人はハンドサインを出し、安全を伝える。すると直ぐにスナイパー３人組が渡ってきて、その後に朝霞と練馬が続く。
全員が渡り切り、多賀城は背負っていたＭ２６ＭＡＳＳ手動散弾銃の槓桿を引き、１２ゲージ散弾（ドアブリーチング弾）を薬室に送り込む。そして、ドアノブに銃口を押し付けて発砲した。

広大な砂漠の中、大量の戦車が走る。
「全く、どうして私がこんな辺境の砂漠まで来なければならないのよ！」
先頭を走る、デザート迷彩仕様の１０式戦車の車長用キューポラから頭を出す、即応機械化中隊　第１戦車小隊長の駒門が愚痴を溢す。
「それ、今更言ってもどうにもなりませんよ」
砲手用ハッチから頭を出す武器娘・ヒトマルにそう言われ、駒門は「むぅ??」と頬を膨らます。
するとそこへ、無線で連絡があった。
〔トムキャット２２からクイーンコマンダー。ポイントＤＡ―２８１６に複数の熱源反応を捉えた。デコイ（囮）の可能性があるが、注意しろ。プラウチームがチャーリーアルファシエラのために待機している〕
「クイーン１―１、ラジャー。１―１より全車、全周囲警戒。後顧の憂いはありませんわね？　見つけたら派手にぶちかましなさい！」
『ラジャー！』

相馬原と芙蓉、２人の５．５６ｍｍ軽機関銃が弾幕を張り、その間に他の隊員達が前進する。
「ＧＯ！」
視界に入ったマグマ軍兵士やＡＳＦ兵士を、的確に撃ち抜き進む。
久居や金沢、豊崎、朝戸達は歩道に頭から乗り上げたダッチ　ラムバンの陰に隠れて弾倉を交換する。すると、久居が何かに気付いた。
「待って。何かコードが――」
汚れまくった商業用バンの下から、近くの建物へとコードが伸びている。久居は８９式５．５６ｍｍ小銃と８４ｍｍ無反動砲（Ｂ）を傍らに置き、バンの下へと手を伸ばす。
「何かある、これは――爆弾です！」
その言葉に、その場にいた全員の顔が青くなる。
「ＩＥＤ（Ｉｍｐｒｏｖｉｓｅｄ　Ｅｘｐｌｏｓｉｖｅ　Ｄｅｖｉｃｅ、即席爆発装置）ですか!?」
「恵那ちゃん、そのコードを追って！　早く！」
滝ヶ原の言葉に、豊崎は頷いた。
「了解しました！」
「あたしも行きます！」
Ｇ３６自動小銃を手にした白野と共に、豊崎は建物に突入した。
ドアを蹴破り、被筒に装着したタクティカルライトを点灯させる。床を伝うコードを追い、地下へと続く階段を下る。
そして、ある部屋へと入った。２人は死角に注意し、部屋を捜索すると、コードが繋がった手の平サイズの箱を見つけた。
「これだ！」
豊崎が駆け寄り、作業用デスクの上の箱に手を伸ばす。その側面の液晶画面に表示された数字がどんどん減っていく。豊崎は、とりあえずコードを引き抜く事を思いついた。
するとその時、カァーンという甲高い音が背後で鳴った。
「何!?」
振り返れば、そこにはフライパンを手にしたマグマ軍歩兵。その足

元には、のびた白野の姿があった。そして、マグマ軍歩兵は豊崎へとフライパンを振りかざす。豊崎は辛うじてフライパンをかわし、素早くヒップホルスターからＵＳＰ自動拳銃を引き抜く。セーフティレバーを下ろし、そのままマグマ軍歩兵の腹部目掛けて引き金を引きまくる。

ホールドオープン、足元に９?１９ｍｍパラベレム弾（フルメタルジャケット弾）の複数の薬莢が転がり、マグマ軍歩兵の物言わぬ死体が倒れる。豊崎はＵＳＰ自動拳銃の弾倉を交換、スライドストップレバーを下ろす。そして、思い出した。

急いで箱を持ち上げる。液晶画面のカウントは、５秒を切っていた。すぐにコードを外すと、カウントダウンは止まった。

「ふぅ??」

豊崎は溜息をつく。すると、耳にはめたヘッドギアのイヤホンから、緊迫した声が響いた。

〔豊崎！　爆弾は解除したのか!?　それと白野はどうした!?〕

「まりこさん、解除は出来ました。継実は、フライパンで殴られてのびてます」

〔ＰＵＢＧかよ！　今こっちは敵と交戦中だ！　陸自と米海兵隊が駆けつけてくれたが、数が足りない！　急いで戻ってこい！〕

「了解！」

豊崎は、のびている白野を背負い、地上へと戻った。

11th　弾幕を張れ

白野を背負った豊崎は、駆けつけた救護班に白野を預けた。
「お願いします！」
「任されました！　ひかりちゃん、バイタルチェック！」
「了解！」
すると、宇都宮が豊崎に向かって叫んだ。
「恵那！　ＡＳＦのテクニカルで弾幕を張れ！」
「了解！」
急いで豊崎は、道端に放置されたテクニカル――タコマ武装ピックアップトラック――の荷台によじ登り、そこに設置された１２．７ｍｍ　ＤＳｈｋＭ重機関銃の銃把を握った。

７人は薄暗い路地裏を突き進む。すると、無線で連絡があった。
〔エーブルコマンダーから２―２。メディックチームが後退するため、支援射撃を行ってくれ〕
「２―２からコマンダー、位置と方位を」
〔ＴＤＬ（Ｔａｃｔｉｃａｌ　Ｄａｔａ　Ｌｉｎｋ、戦術情報共有）で送った。南に後退する〕
そう言われ、朝霞はコータムⅡの画面を見る。救護班がいるのは、現在地から近い。
「２―２、メディックチームの援護に向かう。皆、行くわよ」
７人は移動を再開、建物に突入した。
階段を上り、一気に屋上へ。角を陣取り、桐子と照安はそれぞれの狙撃銃の二脚を広げて構えた。
「２―２、位置に着いた」
〔メディック了解。移動します〕
眼下の通りを、衛生班が走る。先頭を、防暑迷彩服と３型防弾チョッキを着た三宿、その後から白野を背負った上月が走り、通りに停車していた軽装甲機動車と高機動車の車列に近付く。そして、高機動車に乗り込んで去っていった。

ファルジナ上空を、イスラエル空軍所属のＦ―１６Ｉ戦闘攻撃機の編隊が飛ぶ。ファルジナ入りを果たしたアメリカ海兵隊の部隊が要請した航空支援に対し、既に中国空軍の殲―１０Ｂ多用途戦闘機が雷霆―２　５００ｋｇレーザー誘導爆弾を投下している。

〔スカイアイ４１よりフィロン１、ミスフィット１―３がチャーリーアルファシエラを要請。ポイントＡＦ―１３７８、方位０９０より侵入せよ〕

「フィロンリーダー、コピー。ターンヘディング、ナウ」

Ｆ―１６Ｉ戦闘攻撃機の編隊は転進した。

豊崎は１２．７ｍｍ　ＤＳｈＫＭ重機関銃を撃ちまくる。突撃してくるマグマ軍歩兵達が、１２．７×１０８ｍｍ弾（フルメタルジャケット弾）によって次々とミンチになっていく。

上空を、米海兵隊のＡＨ―１Ｚ攻撃ヘリとＵＨ―１Ｙ汎用ヘリが飛んでいき、２０ｍｍ　Ｍ１９７多砲身機関砲が咆哮を上げる。そしてホバリングしたＵＨ―１Ｙ汎用ヘリから海兵隊員達が降下してくる。

１２．７ｍｍ　ＤＳｈＫＭ重機関銃が弾切れになり、豊崎は装弾板を開き、空になった弾薬箱を放って代わりの弾薬箱を持ち上げる。スタータータブを引っ張り出し、それを給弾板に乗せて装弾板を閉じる。

その時、強い揺れが彼女達を襲った。

揺れでタコマ武装ピックアップトラックが浮き上がり、豊崎は放り投げられる。そして、アスファルトに叩き付けられた。

痛みに耐える彼女が最後に目にしたのは、すぐ側のビルがホバリングしていたＵＨ―１Ｙ汎用ヘリを巻き込んでこちらに倒れてくる光景だった。

12th Freeze

「――ばる中東までやってきて、自衛隊もすっかり変わってしまったね。お兄さん、生か死か、どっちがいい？」
「何で日本人がここに――」
「早く答えないと、大事なタマを撃っちゃうよ？」
「待て、俺はまだ――」
ドゴォン。

朦朧としてはいた意識が、1発の銃声ではっきりとした。痛みは無いが、体が動かない。かろうじて動く腕を動かすと、何か硬い物で囲まれているのが分かった。
（いや、挟まっている？）
渾身の力を込めて目の前の硬い物を押し退け、上体を起こす。周りは暗く、所々で照明が付いてはいた。彼女はヒップホルスターからUSP自動拳銃を抜いて近くの物陰に隠れた。
【Tell the UN soldiers（国連軍兵士達に告ぐ）！ We ASF and Magma Army let's extend our help to all UN soldiers（我々ASFとマグマ軍は、全ての国連軍兵士達に救いの手を差し伸べよう）！ Get out in a visible place（見える場所に出てこい）！ If you are hiding, you will regard it as an invasion act（隠れていると、侵略行為と見做すぞ）！】
彼女は、スピーカーから流れる英語の全てを理解できなかった。しかし、今見つかれば碌な目に遭わないというのは分かった。
「――イアイ41より全――バーン北西16kmで大規模な――動が無かった事から、人工て――ちにファルジナより撤――」
耳に当てたヘッドセットから無線で指示が聞こえた。しかし、調子が悪いのか電波が足りないのか、あまり聞き取れなかった。

彼女は、物陰沿いに移動を開始した。
道路に出来た亀裂を、匍匐前進で進む。その上を、何も知らないＡＳＦ兵士やマグマ軍歩兵が飛び越えていく。
（お願い、見つけないで！）
彼女は祈る思いで進む。
道の真ん中に墜落したＵＨ―１Ｙ汎用ヘリの残骸から米海兵隊員の死体が転げ落ち、彼女は悲鳴を上げそうになる。咄嗟に口を塞ぎ、出かかった悲鳴を必死に抑える。そして、匍匐前進を再開した。
何とか通りを渡りきり、彼女は近くの建物の扉をそっと開ける。そして、中に入って音が出ないように扉を閉めた。
「連中、核実験なんて夢にも思ってないだろうな」
「日本軍も自棄になって取り返しに来ているが、もう手遅れだ。知ってるか、日本は若い女だけの部隊を作って送り込んでるってよ」
「まじかよ、見た目が良ければ――」
「だな」
２人のＡＳＦ兵士が、入口に近い所で談笑をしていた。アラビア語だったため内容は分からないが、１人が近付いてくる。彼女はＵＳＰ自動拳銃をヒップホルスターに仕舞い、代わりにコンバットナイフを抜く。真っ暗闇を利用し、静かに近付いて死角に引き込む。そして、コンバットナイフで首をかき切った。
「おい、どうした？」
小さな物音に反応した、もう１人のＡＳＦ兵士がやってくる。彼女は素早く体勢を立て直し、息を潜める。
「返事くらい――」
躊躇い無く、ＡＳＦ兵士の首にコンバットナイフを突き刺した。そして、彼が持っていたＦＡＪＲ―２２４自動小銃を奪う。
３０連Ｐ―ＭＡＧ弾倉を外し、一番上の弾を押して残弾を確認、そして弾倉を元通りにしっかりと差し込む。槓桿を勢い良く引くと、薬室から１発の５．５６×４５ｍｍ　ＳＳ１０９弾（フルメタルジャケット弾）が弾き出されたが、彼女は放っておいた。
「おい！　何の音だ!?」

廊下の角から飛び出してきたＡＳＦ兵士に、彼女はＦＡＪＲ―２２４自動小銃の銃口を突きつけ、こう言った。
「Ｆｒｅｅｚｅ（動くな）」
しかし、ＡＳＦ兵士は手にしたＧ３Ａ６自動小銃の銃口を上げる。
彼女は、引き金を引いた。

「銃声だ！」
「味方か!?」
「敵も味方も５．５６ｍｍを使ってるんだ！　分かる訳が無いだろう！」
銃声を聞きつけたＡＳＦ兵士達とマグマ軍歩兵達が、建物に突入する。
その入口の死角に隠れていた彼女は、足音が遠ざかっていくのを確かめ、外へ飛び出した。
細い路地を進み、南へ向かう。すると、物陰に何かいる気配を察知した。ＦＡＪＲ―２２４自動小銃の銃床を肩に付け、Ｍ２ドットサイトを覗く。ゆっくりと近付くと、それは動いた。
「Ｄｏｎ，ｔ　ｍｏｖｅ！」
「Ｆｒｅｅｚｅ！」
お互い銃口を突きつけ合う。ＦＡＪＲ―２２４自動小銃とＭ４Ａ１ＭＷＳ自動小銃の銃口は、互いの胴体を向いていた。しかし、Ｍ４Ａ１ＭＷＳ自動小銃の銃口が先に下がり、彼女に銃口を向けていた誰かが口を開いた。
「恵那ちゃん……？」
「未世？」
Ｍ４Ａ１ＭＷＳ自動小銃を携えた朝戸が先導し、ＦＡＪＲ―２２４自動小銃を持った豊崎が続く。
「そういえば、無線聞いた？」
「いや、聞こえなかった」
「そっか……　どうやらあの『揺れ』、地震じゃないみたいだよ」
「地震じゃない？」

「人工的な爆発、核実験じゃないかって。詳しくは分からないけど」
「核……　私達がここに来たのって――」
「だとすれば、手遅れだね」

　そんな中、航空支援機を護衛するために、ＣＡＰ（Ｃｏｍｂａｔ　ａｉｒ　ｐａｔｒｏｌ、戦闘空中哨戒）中だったフランス空軍所属のラファールＣ多用途戦闘機達が、突然ロックオンされた。
〔周波数解析――Ｆ―１４か!?〕
「だとすればイラン軍のものだ！　デュランダルリーダー、エンゲージ！」
　ラファールＣ多用途戦闘機達は増槽を捨て、ＭＩＣＡ　ＲＦ中距離空対空ミサイルを発射した。当然敵機も、ＡＩＭ―２３Ｃ　セジル中距離空対空ミサイルを発射、双方がチャフを撒いて散開、回避機動を取る。
　ラファールＣ多用途戦闘機に被害は無かったが、敵機編隊の半分が撃墜された。そして、ドッグファイトに突入した。ラファールＣ多用途戦闘機は可変カナード翼とフライバイワイヤを駆使して旋回、敵機も可変後退翼を目一杯広げてフラップを下げてシザース機動へ。
　ラファールＣ多用途戦闘機のＦＬＩＲ（ｆｏｒｗａｒｄ　ｌｏｏｋｉｎｇ　ｉｎｆｒａ―ｒｅｄ、前方赤外線索敵装置）は、敵機のシルエットを捉える。アメリカ製可変後退翼艦上戦闘機・Ｆ―１４ＡＭトムキャットに化けた、マグマ軍の艦上戦闘機１４號ＡＭ型を。

　２人は通りを突き進む。角で止まり、朝戸はコータムⅡで連絡を取った。
「ベーカー１―２よりニアボアブラザー。テイクアウターは何処だ？」
〔ベーカー１―２、朝戸ね？〕
「あ、宇都宮さん」
〔あ、じゃないでしょう!?　まだ見つかってないのはあんたと豊崎だけよ!?〕

「恵那も一緒にいます。ただ、コータムが不調らしくて」
〔そう……　今作戦開始地点にいるわ。２０分後、米陸軍のＭＲＡＰ部隊が救援に来てくれる。くれぐれも遅れるんじゃないわよ？〕
「了解。恵那、行くよ」
「分かった」
２人は駆け出した。

１３ｔｈ　不能

「青い空、果てしない水平線、シャレにならない紫外線量と気温！　お肌ピッチピチのＪＫが水着姿でキャッキャウフフしてるというのに――何で２型迷彩服着てるのよ？」
「俺としては、どうして戦場に水着を持ってくるのかと訊きたいところですけどね」
５月だけど水着回。リア充共の定番イベントですよクソ喰らえ。

ワスプ級強襲揚陸艦〈サラトガ〉。アメリカから日本へと供与されたこの艦は、国連軍第１３機動艦隊（通称・ティアンム艦隊）旗艦、そして即応機械化中隊の母艦としてペルシャ湾に展開していた。ファルジナに展開していた国連軍を襲った「揺れ」から２日、国連軍地上部隊はファルジナから南へ２０ｋｍの港町・ムシャラナまで後退し、即応機械化中隊は後方待機を命じられていた。
「だからって、水着ではしゃぐか？」
「彼女達には夏休みなんて無かったんだから、仕方ないじゃない？」
「何気に富士さんも水着持ってきてたんですね」
「アラサーの女がはしゃいでて悪かったわね」
「さりげなくチョークスリーパー決めないでください」
〈サラトガ〉飛行甲板後端にて、迷彩服を着てリクライニングチェアに座っていた坂城の首を、真っ黒なビキニを着た富士が締める。
「下で一緒に遊んできたら？」
「そんな年じゃありませんし、男１人ですし。ＪＫの集団に入れるわけが無いじゃないですか」
「固いわね、隊長なのに」
「セクハラやパワハラで訴えられるのを避けてるんです」
「前任者は軟派だったのに」
「一体何をしたんですか土居内１佐は!?」
「何って――習志野のお尻を揉んだり、富山ちゃんと一緒にお風呂入ったり、久居ちゃんを抱き締めたり、富山ちゃんを押し倒したり、補

佐役とベッドで状況開始（意味深）」
「どれもアウトじゃないですか！」
「ちなみに本人達の了承はあるわよ」
「ラノベ的主人公じゃないですかヤダー」
「そういうあなたも、私と抱き合っているじゃない？」
「富士さんが俺の首を締めてるだけですよね？　抱き合ってるなんて言いませんよこれ」

〈サラトガ〉ウェルドック――
「隊長さん、降りてくる気は無いか」
「姐さん、あんなのを狙ってるんで？」
「違うわよ。でも、親睦を深めたいって思ってる」
　海水が引き込まれたウェルドックのスロープに立った、水着姿の守山と春日井が話す。即応機械化中隊の隊員達の多くが、ここで海水浴を楽しんでいた。
「屋根のある場所で海水浴が出来るなんて、贅沢ですよね」
「随分と暗いけどな」
　ウェルドックに引き込まれた海水に、浮き輪で浮く久居と富山が話す。周りでは、即応機械化中隊の隊員達がはしゃいでいた。
「あんなに海水を撒き散らして、後で海さんが泣き目を見るぞ」
「あー、後で須恵原1尉が笑顔で『全員、壁洗いな？』って言いそうですね」
「1尉といえば、新しく来た隊長さん、坂城2尉。どー思ってる？」
　突然、水面からゴーグルを着けた練馬が浮上してきた。しかし、2人は慣れているように対応した。
「どーもこーもあるか。幹部レンジャー卒の元中即連（中央即応連隊）小隊長、その前はＦＴＣ訓練隊（部隊訓練評価隊）、優秀の2文字しか出てこねーよ」
「男としては？」
「不能」
「だよねー……」

１４ｔｈ　ざっとこんな感じだ

その後、須恵原１尉のありがたいお言葉により、即応機械化中隊隊員総出でウェルドックの掃除を行い、自由時間となった。

「松戸さん、９ｍｍ弾を５０発お願いします」

「９ｍｍを５０ですか。自主練？」

「はい」

そんな中、朝戸は〈サラトガ〉艦内の弾薬庫に来ていた。ラフなＴシャツ姿だが、腰にはＧ１７自動拳銃が収まったヒップホルスターとＭＫ３戦闘ナイフがぶら下がっていた。

そして、松戸が「ＡＫ４４Ｊ　９×１９ｍｍ訓練弾」と書かれたベージュ色の箱をカウンターに置いた。朝戸はそれを受け取り、松戸にお礼を言って射撃場へ向かった。

ワスプ級強襲揚陸艦〈サラトガ〉は、第二次世界大戦時の如何なる空母よりも巨大な格納庫（正しくは格納甲板）を有する。しかし、〈サラトガ〉の設計想定数よりも少ない航空機しか持たない即応機械化中隊には無用の長物となっていた。

その為、現在では航空機格納庫の半分が潰され、「実験ラボ」やら「シューティングレンジ」やらが作られているのであった。

朝戸はシューティングレンジに入り、プロテクター類を身に着ける。既に何人かが射撃練習をしており、銃声が狭い空間で反響し、共鳴していた。

Ｇ１７自動拳銃の弾倉に、９×１９ｍｍ　パラベレム弾（訓練弾）をマグローダーで押し込め、左右を区切られたシューティングポイントに立つ。そして、弾倉をＧ１７自動拳銃の銃把に差し込む。

紙で出来た的を可動台にセット、可動台が徐々に近付いてくるようにセットしてボタンを押した。可動台は一気に２０ｍ先まで移動した。

朝戸はＧ１７自動拳銃の遊底を引き、ヒップホルスターに仕舞った。

そして、ブザーが鳴った。
素早く朝戸はヒップホルスターからＧ１７自動拳銃を引き抜き、狙いを定めて引き金を引く。決して弱くない、けれども慣れた反動が右肘を襲い、真鍮製の薬莢が壁に跳ねる。
硝煙煙る銃口を下ろし、的を見る。的に描かれた人影の胴体部分に数発の命中弾、上々だ。
「自主練？」
すると、背後から話し掛けられた。振り返ると、そこには白根がいた。
パーカーにショートパンツと飾らない格好だが、腰にはＰｘ４ストームＳＤ自動拳銃が収まったヒップホルスターが吊るされていた。
「まぁね。でも、本当私服が地味だね」
「何言ってるの。ここは戦場よ。コーデを考える労力は無い」
「……」
朝戸は言葉を失う。すると、白根は可動台にセットされた的を交換し、２０ｍ先まで移動させた。
「未世の撃ち方はアイソセレス、１５ｍ以上には適さない」
「でも、学校ではこれしか習わなかったよ」
「試しに１発撃ってみて」
白根にそう言われ、朝戸はＧ１７自動拳銃を抜いて構えた。狙いを定め、軽い引き金を引いた。
発砲、銃口が若干跳ね上がり、的に当たった。
白根がボタンを押し、可動台が戻ってくる。すると、朝戸が撃った弾丸は的の頭部、それもど真ん中に命中していた。
「おー」
「なるほどな」
すると、白根はまた的を２０ｍ先まで移動させ、Ｐｘ４ストームＳＤ自動拳銃を抜き、ウィーバースタンスで構える。
９×１９ｍｍ　パラベレム弾よりも強力な、４５ＡＣＰ弾の衝撃が響き渡り、薬莢が床を跳ねる。
再び可動台が戻ってきた。的の頭部には、朝戸の命中弾を中心に、

ニコちゃんマークが弾痕で描かれていた。
「ざっとこんな感じだ」
「……うわぁ」

１５ｔｈ　何でも揃えるのが私のモットーですから

「マツコさん、頼んだのある？」
〈サラトガ〉艦内、購買部にて、坂城２尉がカウンターの前に立っていた。すると、店内から長い茶髪を２つに束ねた美少女が走ってきた。
「坂城２尉の注文は……これですね」
その美少女――購買部所属のマツコ（本名不明）――は、カウンターの中から１つの箱を取り出した。坂城はそれを受け取り、ラベルを確認していると、須恵原１尉がやってきた。
「やぁ、お２人さん。まだ明るいのにイチャついて」
「「違います」」
「何だよ、もうちょいノってくれてもいいのに……で、マツコちゃん、アレは届いているかい？」
「はい、もちろんです」
再び、マツコがカウンターの中から箱を取り出した。
「こちらですね」
「おう、サンキュー」
早速受け取った須恵原１尉に、坂城２尉が尋ねた。
「何です、それ？」
「レンジファインダーだよ。レーザー測距儀とも言うが」
「何でまた？　我らのミル測距法があるじゃないですか」
「違う違う。目的は、『攻撃がどれくらい外れたか』を測るためさ。支援砲撃頼んで、観測を間違えていたら、いつまで経っても当たらないからな。そういうお前は何頼んだんだ？」
「ナイフですよ。ダガーナイフを買ったんです」
「銃剣があるだろう」
「８９式ですか？　純粋なナイフが欲しかったんです。Ａｍａｚ○ｎで注文して、届け先を『ペルシャ湾　強襲揚陸艦〈サラトガ〉にしたらエラーが出まして』」
「俺も同じだ。宛先を岐阜基地にしただろ？」

「ええ。1尉も？」
「ああ。全く、C―2でイヴァク連邦まで運び、そっから補給物資を積んだオスプレイでーー丸々3週間だ」
「仕方ないですよ。日本と中東、燃え上がっている真っ最中ですかね」
　するとそこへ、福岡がやってきた。
「マツコさん、ムースってある？」
「ええ。アイス売り場にありますよ」
「おお、流石」
　嬉々としてアイス売り場へ向かった福岡の後ろ姿を見て、坂城2尉が口を開いた。
「ムース？」
「九州地方のご当地アイスです。元々は給食用に作られましたが、セブ〇イレブンで全国展開したんです」
　坂城2尉の疑問に、マツコが答えた。そして、須恵原1尉が店内を見渡した。
「改めて見ると、色々置いてあるな」
「酒も置かれてますよ。海さんが知ったら激怒もんですよ」
「大丈夫です。海上自衛隊から許可は得ていますし。ティッシュペーパーから避妊具、戦車にデイビークロケットまで何でも揃えるのが私のモットーですから」
「いかがわしい物が2つ聞こえたのは気のせいかな？」
　坂城2尉の言葉に、須恵原1尉が真面目な解説をした。
「坂城、避妊具はいかがわしい物じゃないぞ。英空軍のサバイバルキットにも入ってる立派な軍需品だ」
「もうやだこの星……」

１６ｔｈ　戦いは数だよ兄貴

「今度は夜襲ですか」
「仕方無いだろ。こっちは一旦撤退し、向こうは戦力を整えたんだ。正攻法以外は無理だ」
　夜、ファルジナ南の砂丘に即応機械化中隊は隠れていた。
「既に民間人への退避勧告は行われた。１０分後、ＥＡ―１８Ｇと共にＦ―１６とＡ―１０が空爆を行う。その後、戦車隊と一緒に突入する。エーブルが先行、ベイカーは戦車隊と共に進め」
　須恵原１尉の指示に、全員が頷いた。
「よし、時刻規正を行う。１０秒前、８、７、６、５、４、３、２、１、今！」

　０２００時、アメリカ空軍のＦ―１６ＣＭ多用途戦闘機と韓国空軍のＫＦ―１６多用途戦闘機がファルジナへと低空侵攻、急上昇して５００ポンド　Ｌ―ＪＤＡＭレーザー／ＧＰＳ誘導爆弾をトス爆撃の容量で投下、ＭＱ―９多用途無人機が誘導してマグマ軍の地対空ミサイルや対空戦車を破壊した。
　すぐにＡ―１０Ｃ対地攻撃機が襲来、ＡＧＭ―６５Ｇ２　マーベリック空対地ミサイルを放って装甲車両を撃破した。
　もちろん、敵も黙っていない。重機関銃や機関砲、歩兵携行型地対空ミサイルで反撃する。Ａ―１０Ｃ対地攻撃機はフレアを撒き、ミサイルを躱す。
　そして、日米韓連合部隊がファルジナに突入した。Ｋ２１歩兵戦闘車やＭ２Ａ３歩兵戦闘車の機関砲が唸り、マグマ軍歩兵やＡＳＦ兵士達をミンチにしていく。そして、自動小銃を手にした兵士達が建物へと突入していく。
　しかしそこへ、２機の戦場戦闘機２９號Ａ型が低空侵攻してきた。
「撃ち落とせ！」
　Ｋ２１歩兵戦闘車の４０ｍｍ　ＸＫ４０機関砲や８９式装甲戦闘車の３５ｍｍ　ＫＤＥ機関砲が弾幕を張る。が、亜音速で飛ぶジェッ

ト戦闘機には当たらない。
そして、主翼に2本ずつぶら下げたポッドを投下した。
投下された4本のポッドは空中で分解、大量の小型ドローンをばら撒く。それらのドローンは、画像認識で人間を識別、その頭目掛けて特攻する。そして――
「あでっ」
多国籍軍兵士達のヘルメットに命中、粉々になったとさ。
ＣＡＳ待機中だったＦ―１５Ｅ戦闘爆撃機の編隊は、Ｅ―８Ｃ地上管制機からの情報を受けて迎撃に向かう。戦場戦闘機２９號Ａ型をロックオン、マスターアームスイッチは「ＯＮ」になっている。
「ＦＯＸ３！」
ＡＩＭ―１２０Ｃ　アムラーム中距離空対空ミサイルとＲ―７３Ａ　アーチャー短距離空対空ミサイルが放たれる。Ｆ―１５Ｅ戦闘爆撃機は爆弾と増槽を切り捨て、フレアを撒いて回避機動に移り、戦場戦闘機２９號Ａ型もチャフを撒く。しかし、双方のミサイルが命中してしまった。Ｆ―１５Ｅ戦闘爆撃機の左エンジンから火が吹き出し、戦場戦闘機２９號Ａ型の右主翼が吹き飛んだ。

激しい銃撃の中、エーブル小隊は進む。全員、頭には８８式鉄帽とＪＧＶＳ―Ｖ８夜間暗視装置が装着されており、一部の隊員んは８９式５．５６ｍｍ小銃の銃身に赤外線レーザーサイトを取り付けていた。
エーブル2分隊が6階建てのビルに突入、一気に制圧する。トラップに気を付けながら1階ずつクリアリングをする。そして、屋上へとエーブル2―1が登り、相馬原がＭＩＮＩＭＩ軽機関銃の二脚を広げて角を陣取った。スコープを覗き、眼下の通りへ掃射を行った。
マグマ軍やＡＳＦも反撃し、激しい応酬となる。ありったけの機関銃や自動小銃が弾幕を張り、その銃声が共鳴し、反響した。
「弾ぁ持ってこーい！」
背負っていた戦闘背嚢を屋上に転がし、その中から新しい弾薬箱を取り出す相馬原が叫んだ。すると、新発田が返す。

「未咲さん撃ち過ぎです！」
「何言ってんだ！　戦いは数だよ兄貴！」
「兄貴って何ですか!?」
「ガ○ダムネタ入れないでくださいよ」
　豊川が突っ込む。すると、クローラの音が響いた。
「戦車だ！」
　それは、重戦車９０號だった。すぐに新町が８７式対戦車誘導弾（中ＭＡＴ）を構え、レーザーを照射した。しかし、重戦車９０號に搭載されたシュトーラＡＰＳ（Ａｃｔｉｖｅ　Ｐｒｏｔｅｃｔｉｏｎ　Ｓｙｓｔｅｍ、アクティブ防護システム）が作動、対赤外線煙幕弾を発射した。
「空軍の連中、戦車を残していきやがった！」
　富山が愚痴る。すると、朝霞が返した。
「ＣＡＳで全部殺れはしないでしょ」
「最後は歩兵の仕事、ってか？」
　富山が悪態をつく。すると、先程の重戦車９０號が曲がり角から出てきた。砲塔が旋回、１２５ｍｍ　２Ａ４６Ｍ―１滑腔戦車砲と１２．７ｍｍ　ｋｏｒｄ６Ｐ５１重機関銃がエーブル２―２の４人を狙った。
「畜生、こっち来やがった！」
「皆、逃げるよ！」
「承知した！」
「あーもーついてない！」
　４人は走って逃げ、近くのビルへと練馬、朝霞、多賀城の順に飛び込んだ。そして、富山が滑り込もうとした時に、１２５ｍｍ　ＨＥＡＴ―ＭＰ（多目的対戦車成形炸薬榴弾）が発射された。

１７ｔｈ　一昨日来やがれってんだ

朝霞は立ち上がり、８９式５．５６ｍｍ小銃の被筒に装着したＡＮ／ＰＥＱ―１６多用途照準デバイスのＬＥＤライトをつけて辺りを照らした。
「皆、大丈夫？」
「頭がガンガン鳴ってるけどね」
「問題無い。刀も折れてないしな」
「ひみ子さんは？」
「生きてるよ。あと一歩遅けりゃ、焼け死んでたか、潰れ死んでたな」
富山は立ち上がり、８９式５．５６ｍｍ小銃を持ち上げた。今４人は、入口が崩壊したビルの１階にいた。朝霞はチェストリグの肩紐部分にあるケースからコータムⅡを取り出し、現在地を確認した。
「とりあえず、外に出ましょう。練馬、先頭に立って。直葉さんはしんがりを」
『了解』

軽装甲機動車の銃座に設置された７４式７．６２ｍｍ車載機関銃が弾幕を張り、敵の応射が止んだ隙に前進、突入する。竹松がＭ８７０ブリーチャー手動散弾銃でドアノブを破壊、一気に踏み込む。明野と座間が６４式７．６２ｍｍ小銃でマグマ軍歩兵を撃ち殺し、ライトで安全を確認した。
「確認！」
「クリア！」
「クリアー！」
「次行くぞ！」
下志津が叫び、移動を再開した。

裏口を見つけ、エーブル２―２分隊はビルを出た。しかし、そこをちょうど重戦車９０號を通っていった。４人は驚くが、向こうはこちらに気付いてない。

朝霞はハンドサインで「対戦車兵器」と指示し、富山は背負っていた１１０ｍｍ個人携帯対戦車弾（ＬＡＭ）を手に取った。床尾板（バットプレート）、銃把（グリップ）、バーティカルフォアグリップを展開、弾頭プローブを伸ばして対戦車モードへ。セレクターを［Ｓ］から［Ｆ］へと下げ、多賀城が後方を確認、富山の８８式鉄帽を叩いた。富山はスコープを覗き、重戦車９０號のエンジンを狙う。そして、引き金を引いた。

火薬に引火、巨大なロケット弾が約１６５ｍ／ｓで撃ち出され、後方へと金属粉のカウンターマスが噴き出した。ロケット弾は空中でロケットブースターが点火、約２５０ｍ／ｓまで加速した。

そしてロケット弾は、重戦車９０號のエンジンに命中、弾頭が起爆し、成型炸薬のモンロー／ノイマン効果でエンジンを破壊した。

「どうだ！　一昨日来やがれってんだ！」

発射チューブからスコープを取り外しながら、富山は叫んだ。しかし、砲塔上部の１２．７ｍｍ　Ｋｏｒｄ重機関銃が旋回した。

「クソがぁ！」

富山が声を張り上げ、朝霞は目を見開き、練馬の顔が青ざめ、多賀城は短刀〈白之紫〉に手を掛ける。

しかし、直後に１２．７ｍｍ　Ｋｏｒｄ重機関銃が破壊された。

１８ｔｈ　バビロン計画

「ヒット」
「６００ｍ先のマシンガンのバレルをへし折ったんだ。どーよ？」
「普通」
「ちぇっ」
　廃墟の床に伏せていた蒼髪の少女は、構えていたＴＲＧ―４２対人狙撃銃を持ち上げ、ＭＰ９短機関銃の折曲銃床を展開、ＴＲＧ―４２対人狙撃銃を背負った。そして、隣で伏せて単眼鏡を覗いていた、青藤髪の少女は脇に置いていたモシンナガンＭ２８手動小銃を背負い、ＧＧ―９５ＰＤＷ短機関銃の槓杆を引いた。

「助かった……のか？」
　１１０ｍｍ個人携帯対戦車弾（ＬＡＭ）の発射筒を捨てながら、富山は呟いた。
「恐らくな」
　多賀城が返す。そして、朝霞は指示を出した。
「本隊に遅れてる。急ぐわよ」

　その本隊より後方２ｋｍに位置する軽装甲機動車（ＬＡＶ）の後部座席で、坂城２尉はＴＯＵＧＨＢＯＯＫ戦術情報端末の画面を見て唸っていた。
「敵戦車隊に抑え込まれているようです」
　隣の高田が、次々と送られてくる情報を整理しながら坂城２尉に報告する。
「攻撃ヘリを要請したいが、まだＳＡＭ（地対空ミサイル）があるからなぁ……」
「上の連中が攻撃ヘリを減らそうという理由が、ここで証明されるとはね」
　運転席の富士が、周りを警戒しながら呟いた。

三田がＭ８７０ＭＣＳ手動散弾銃でドアノブを撃ち飛ばし、宇都宮が蹴り開ける。そして、朝戸と豊崎が突入した。マグマ軍歩兵がＡＫ―７４自動小銃を構えるが、それより早くＭ４Ａ１ＭＷＳ自動小銃と８９式５．５６ｍｍ小銃が８９式５．５６×４５ｍｍ　普通弾（フルメタルジャケット弾）を素早い単射でばらまいた。
「クリア！」
「クリアー！」
２人は銃口を下ろす。部屋に宇都宮と三田が入ると、宇都宮が床に落ちている物を拾い上げた。
「何です、それ？」
朝戸が、宇都宮が拾い上げた物を覗き込む。
「メモ用紙ね。……『バビロン砲』？　何で日本語が？」
そこには、日本語で［バビロン砲　スカッド利用で最大射程１万ｋｍ（理論値）］と書かれていた。
「一体何なんでしょうか？」
「私に訊かないでよ。でも、スカッドって――」
「ソ連製の短距離弾道ミサイルですね」
宇都宮の言葉に、豊崎が重ねた。
「ミサイルを砲で発射って事？　ロシア戦車じゃあるまいし――」
そう言い掛けた朝戸に対し、三田が口を開いた。
「『バビロン計画』、聞いた事がある。確か、イラン・イラク戦争の時にイランが計画した、スカッドミサイルをより遠くへ飛ばす多薬室砲の計画」
「よく知ってるわね……」
宇都宮がそう言うと、三田は応えた。
「前に読んだオカルト本に書いてあった」
『……』
３人は、反応に困った。

１９ｔｈ　高濃縮プルトニウム

やがて、夜が明け始めた。マグマ軍とＡＳＦは次第に統率が取れなくなり、徐々に多国籍軍に押されていく。
「報告、我が部隊の被害は軽微です」
「軽微……具体的には？」
「軽傷２名のみです」
「了解、手当と補給を急げ」
「了解しました」
坂城の指示で、高田はコータムで部隊に指示を出す。そして、富士が口を開いた。
「まずまずといった所かしら？」
「ええ。元より、ＭＯＵＴっていうのは奇襲と待ち伏せの繰り返し。上手くいけば被害は少ないが、失敗すれば部隊は壊滅する。そんなもんです」
「ＦＴＣの教訓、かしら？」
「ええ。野戦なら負け無しだったんですが」

朝霞達エーブル２―２は、ビルの屋上から日の出を見ていた。
「西アジアの夜明け、か……」
「結局徹夜じゃない。これだったらアニメ見る方が有意義だわ」
「戦争ほど無意義な物はない、と思うが？」
「だけど、戦わねば殺されるんだ。意義なんて関係無ぇよ」
「ひみ子ちゃん、ちょっとタバコ吸ってみ？　めっちゃ似合うよ」
「吸わねーし、持ってねーよ！」
「そういえば、即機中に喫煙者はいないな」
「あー、確かに」
「一般社会でも吸ってる人減ってるらしいし、時代なのかもね」
一方、エーブル１―２の４人は通りを警戒していた。
「クリアしたのか、にゃ？」
「その『にゃ』を止めろ」

「えー」
　対馬が頬を膨らますが、習志野は放った。
「ここも、かつては平和な日常が送られていたのでしょうか？」
　国分が、足元に転がっていたクマのぬいぐるみを見ながら呟いた。
「戦争というのは、この世で最大の悲劇であり、悲劇よりも酷いものだ。一番質が悪いのは、ノンフィクションであるという事だ」
「習志野さん、それ何処の引用です？」
「鋭いな。何処だったか忘れたが」

「Was it successful（で、成功したの）？」
「Of course（勿論です）．　If there is enough high—concentration plutonium in that amount, it will blow away the ten most cities in the world cleanly（あれだけの量の高濃縮プルトニウムがあれば、世界十大都市を綺麗に吹っ飛ばせますよ）．　Most likely, the site will become dirty（最も、跡地は汚くなりますが）．」
「How many did you leave（何発出来たの）？」
「Currently, it is only one shot（現状では、まだ1発だけです）．　However, we are already in mass production（しかし、もう既に量産体制に入っています）．　Asural is leaving nuclear—related facilities without giving way to American pressure, everything is good（アスラールが、アメリカの圧力に屈せず核関連施設を残してくれて、万々歳ですよ）．」
「With this, I can finally crush

Ｊａｐａｎ（これで、ようやく日本を潰せるわ）．」
「……Ｗｈｙ　ｄｏ　ｙｏｕ　ｈａｔｅ　ｙｏｕｒ　ｈｏｍｅ　ｃｏｕｎｔｒｙ　ｓｏ　ｍｕｃｈ（どうして、そんなに母国を憎んでいるのですか）？」
「Ｄｏ　ｙｏｕ　ｗａｎｔ　ｔｏ　ｂｅ　ｓｈｏｔ　ｄｅａｄ（撃ち殺されたい）？」
「Ｎｏ，ｔｈｅｒｅ　ｉｓ　ｎｏ　ｒｕｉｎ（いえ、滅相もありません）！」
「Ｗｅｌｌ，ｄｏ　ｎｏｔ　ｌｏｏｋ　ｉｎｔｏ　ｔｈｅ　ｐａｓｔ（じゃ、過去を詮索しない事ね）．」
そう言って、女はＭ７１５回転拳銃の撃鉄を元に戻し、ホルスターに戻した。そして、歩き出した。
しかし一方の白衣の男は、小さく呟いた。
「……Ｅｉｎｅｎ　Ｓｃｈｒｉｔｔ　ｍａｃｈｅｎ（調子に乗りやがって）．」